

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------|-------------|------|-----|--|---|--|
| 国際英語A(L&S) I | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 多様な状況で英語の聞き取りおよび会話能力を向上させることを目的とする。英語によるコミュニケーションが成り立つには、自分の考え・意見を表現する力と共に、相手の言うことを聞き取る能力が必要である。この英語の聞き取りには、慣れが大切であるので、授業では英語による発話をたくさん聞き、発音・イントネーションのみならず、語彙・慣用表現に関する能力を向上させる。さらに、相手の文化的背景についても理解する機会を提供する。 | コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級レベルの運用能力を養うことができる。 特に英語を聞き・応答するために必要な能力を向上させることができる。(異文化理解・言語運用能力) | コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級レベルの運用能力を一定程度養うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語A(L&S) II | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 国際英語A I の履修を踏まえて、多様な状況で英語の聞き取りおよび会話能力をさらに向上させることを目的とする。英語によるコミュニケーションが成り立つには、自分の考え・意見を表現する力と共に、相手の言うことを聞き取る能力が必要である。この英語の聞き取りには、慣れが大切であるので、授業では英語の発話をたくさん聞き、発音・イントネーションのみならず、語彙・慣用表現に関する能力を向上させる。さらに、相手の文化的背景についても理解する機会を提供する。 | コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級レベルの運用能力をさらに向上させることができる。特に英語を正確に聞き・適切に応答するために必要な能力を向上させることができる。(異文化理解・言語運用能力) | コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の中級レベルの運用能力をさらに一定程度向上させることができる。特に英語を正確に聞き・適切に応答するために必要な一定の能力を向上させることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語B(W&R) I | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について大まかに理解し、基礎的な英語を使って意味の通る文章を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の最低限の校正をする能力を獲得している。また、平易な英語の読解力を身に付けることができる。 | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について十分に理解し、文法的に正確で滑らかな英文を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の校正をする能力を獲得している。また一般的、学術的な英語文献の読解力を身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について大まかに理解し、基礎的な英語を使って意味の通る文章を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の最低限の校正をする能力を獲得している。また、一般的、学術的な平易な英語文献の読解力を身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語B(W&R) II | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について大まかに理解し、基礎的な英語を使って意味の通る文章を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の最低限の校正をする能力を獲得している。また、平易な英語の読解力を身に付けることができる。 | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について十分に理解し、文法的に正確で滑らかな英文を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の校正をする能力を獲得している。また一般的、学術的な英語文献の読解力を身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) | 英文作成訓練を通して、パラグラフの書き方と英文の構成について大まかに理解し、基礎的な英語を使って意味の通る文章を書く技術を身につける。さらに学生自身が作成した論文の最低限の校正をする能力を獲得している。また、一般的、学術的な平易な英語文献の読解力を身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語C(L&S) I | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 このコースの主な目的は、時事問題を教材に、リスニング、スピーキングに加え、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を向上させることにある。それには、文法や語彙力という言語知識や技術を強化するとともに、グローバルな視点での現代社会や異文化を理解する力を身につけることが必要となる。教材には、新聞や雑誌の記事、放送ニュース、映画、ビデオ、広告、人気の楽曲など、さまざまなメディアからの資料を使用し、環境問題、政治・情報化時代、女性問題、文化研究など地球規模の問題をテーマとする。 | 時事問題を扱った教材の学習を通して、教材の内容を十分に理解し、グローバルな視点で様々な問題について考えることができる。さらに、高度な英語で独自の考えを発表し、クラス内で意見交換や討論する能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | 時事問題を扱った教材の学習を通して、教材の概要を理解し、扱われている問題について考えることができる。自分の意見を平易な英語で発表することができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語C(L&S) II | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 「国際英語C(L&S) I」の履修を踏まえ、このコースの主な目的は、時事問題を教材に、リスニング、スピーキングに加え、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を向上させることにある。それには、文法や語彙力という言語知識や技術を強化するとともに、グローバルな視点での現代社会や異文化を理解する力を身につけることが必要となる。教材には、新聞や雑誌の記事、放送ニュース、映画、ビデオ、広告、人気の楽曲など、さまざまなメディアからの資料を使用し、環境問題、政治・情報化時代、女性問題、文化研究など地球規模の問題をテーマとする。 | 時事問題を扱った教材の学習を通して、教材の内容を十分に理解し、グローバルな視点で様々な問題について考えることができる。さらに、高度な英語で独自の考えを発表し、クラス内で意見交換や討論する能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | 時事問題を扱った教材の学習を通して、教材の概要を理解し、扱われている問題について考えることができる。自分の意見を平易な英語で発表することができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語D(R) I | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・専門基幹科目です。 英文の要旨や大意を正確に把握できるように英語の読解力を養成する授業である。対象は、2年生で各文化圏や国際社会の様々な問題について書かれた英文を多く読み、速読ができるように体系的な読解の練習を行う。また、英文全体の論理的展開に着目しながら内容を要約し、それについての解釈や意見を発表することで、語彙力や表現力の向上をはかる。異なる文化や社会を理解する目を養い、国際的な視野を広げることも目指したい。 | 徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける上級能力を養うことができる。(異文化理解・言語運用能力) | 徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける能力を最低限身につけることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語D(R) II | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・専門基幹科目です。 前期の授業を踏まえて、英文の要旨や大意をさらに正確に把握できるように英語の読解力を養成する授業である。対象は、2年生で各文化圏や国際社会の様々な問題について書かれた英文を多く読み、速読ができるように体系的な読解の練習を行う。また、英文全体の論理的展開に着目しながら内容を要約し、それについての解釈や意見を発表することで、語彙力や表現力の向上をはかる。異なる文化や社会を理解する目を養い、国際的な視野を広げることも目指したい。 | 徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける上級能力を養うことができる。(異文化理解・言語運用能力) | 徹底した英文読解訓練を通して、英語運用力、とりわけリーディングにおける基礎的能力を養うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------------------|-------------|------|-----|---|---|---|
| 国際英語E (W) I | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業では、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆するトレーニングを行う。その際に必要となる語彙の拡大や文法事項の確認も適宜行う。また、パラグラフとは何か、日本語で執筆する際の段落との違いは何かを理解し、パラグラフ構成の基礎を学修する。執筆と教員による添削内容の確認を繰り返しながら、着実にパラグラフライティングの能力を向上させることを目指す。 | パラグラフとは何かを理解することができる。自分でパラグラフを構成し、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆することができる。ライティングをする上で必要となる広範な語彙力と文法力を身に着け、それを執筆に活かすことができる。(異文化理解・言語運用能力) | パラグラフとは何かを理解することができる。教員のサポートを得ながらパラグラフを構成し、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆することができる。ライティングをする上で必要となる基礎的な語彙力と文法力を身に着け、それを執筆に活かすことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 国際英語E (W) II | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業では、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆するトレーニングを行う。その際に必要となる語彙の拡大や文法事項の確認も適宜行う。また、自身の主張とそれを支える客観的な根拠の提示の仕方を学び、執筆と教員による添削内容の確認を繰り返しながら、着実にパラグラフライティングの能力を向上させることを目指す。 | 自分でパラグラフを構成し、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆することができる。その際、自分の主張とそれを支える客観的な根拠を説理的に示すことができる。ライティングをする上で必要となる広範な語彙力と文法力を身に着け、それを執筆に活かすことができる。(異文化理解・言語運用能力) | 教員のサポートを得ながらパラグラフを構成し、身近なテーマに関する短めのエッセイを英語で執筆することができる。その際、自分の主張とそれを支える客観的な根拠を示すことができる。ライティングをする上で必要となる基礎的な語彙力と文法力を身に着け、それを執筆に活かすことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 英語で読むエリア・スタディーズA (アジア・オセアニア) | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通してアジア・オセアニアそれぞれの地域に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身に付け、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が現代のアジア・オセアニアそれぞれの地域に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。扱う教材のテーマはアジア・オセアニアそれぞれの地域の地誌や歴史、政治・経済、社会、思想・宗教などを含む。 | アジア・オセアニアそれぞれの地域に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常的に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | アジア・オセアニアそれぞれの地域に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) |
| 英語で読むエリア・スタディーズB (ヨーロッパ・アジア) | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通してヨーロッパ・アメリカそれぞれの地域に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身に付け、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が現代のヨーロッパ・アメリカそれぞれの地域に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。扱う教材のテーマはヨーロッパ・アメリカそれぞれの地域の地誌や歴史、政治・経済、社会、思想・宗教などを含む。 | ヨーロッパ・アメリカそれぞれの地域に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常的に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | ヨーロッパ・アメリカそれぞれの地域に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) |
| 英語で読むコミュニケーション・スタディーズA (比較文化) | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通して比較文化に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身に付け、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が現代の比較文化に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。 | 比較文化に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常的に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | 比較文化に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) |
| 英語で読むコミュニケーション・スタディーズB (言語と文化) | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通して言語学に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身に付け、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が言語学に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。 | 言語学に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常的に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) | 言語学に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。(異文化理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年度 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------------|-------------|------|-----|--|--|--|
| 英語で読むグローバル・スタディーズA（国際関係） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通して国際関係に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身につけ、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が現代の国際関係に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。 | 国際関係に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常に的確に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的言語を運用できる能力を身につける。（異文化理解・言語運用能力） | 国際関係に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。（異文化理解・言語運用能力） |
| 英語で読むグローバル・スタディーズB（国際協力） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業の目的は演習形式で英語文献を読みこなし、国際社会で活躍するための実践的な言語を運用できる能力を養うのと同時に、教材となる英語文献の内容を通して国際協力に関する幅広い知識について理解を深めることにある。まず速読、精読を通して、専門用語の語彙力を身につけ、次には英文の要旨を的確に把握した上で、議論の展開や思考のプロセスなどに関する理解力の獲得も目指す。 単に英語力を向上させるのみならず、受講生が現代の国際協力に関する専門的知見を深めると共に、クラス内でプレゼンテーションやディスカッションを取り入れながら、英語文献の内容についての思考力や分析力を養う。 | 国際協力に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を常に的確に理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが十分にできる。これらの学習から国際社会で活躍するための高度な実践的言語を運用できる能力を身につける。（異文化理解・言語運用能力） | 国際協力に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語F(P&D) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 国際協力に関する専門的な英文読解訓練を通して、英文要旨を理解することができる。さらに英語文献から得られた知識をもとに各自の意見を英語で発表し、議論することが最小限できる。これらの学習から国際社会で活躍するための基本的な言語を運用できる能力を身につける。 | 短めのプレゼンテーションを行うために必要なテーマ設定・調査能力、語彙や表現、効果的なプレゼンテーションの手法を身につけることができる。プレゼンテーションのテーマに関して、教員や他の学生と英語でディスカッションをし、自分の考えや意見を説得的に示すことができる。（異文化理解・言語運用能力） | 短めのプレゼンテーションを行うために必要なテーマ設定・調査能力、語彙や表現、効果的なプレゼンテーションの基礎的な手法を身につけることができる。プレゼンテーションのテーマに関して、教員や他の学生と英語でディスカッションをすることができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語G(AR) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 学術的なテーマに関する様々なスタイルの英文を、精読と多読を併用しながら読み、その内容を正確かつ迅速に理解する能力を身につける。そのために、適宜、文法、構文、表現の理解度を確認する他、語彙力の拡大を図る。授業は演習形式で行い、英文内容に関する報告とそれに基づくクラスでの討論を中心に進める。英文から得られた知識、また、それを踏まえて自分自身で考えたことや、新たに調査したことを日本語・英語で表現する能力を養う。 | 1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読み、その内容を説明する能力を身につけることができる。2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげたり、新たな調査・検討を加えることができる。3. 自分自身で考えたことや調査・検討した内容を、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読むために必要な文法、構文、表現、語彙を知識として定着させることができる。2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげることができる。3. 自分自身で発展的に考えたことを、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語H(AR) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 学術的なテーマに関する様々なスタイルの英文を、精読と多読を併用しながら読み、その内容を正確かつ迅速に理解する能力を身につける。そのために、適宜、文法、構文、表現の理解度を確認する他、語彙力の拡大を図る。授業は演習形式で行い、英文内容に関する報告とそれに基づくクラスでの討論を中心に進める。英文から得られた知識、また、それを踏まえて自分自身で考えたことや、新たに調査したことを日本語・英語で表現する能力を養う。 | 1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読み、その内容を説明する能力を身につけることができる。2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげたり、新たな調査・検討を加えることができる。3. 自分自身で考えたことや調査・検討した内容を、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 1. 学術的なテーマに関する英文を正確かつ迅速に読むために必要な文法、構文、表現、語彙を知識として定着させることができる。2. 英文から得られた知識をもとに、自分自身で発展的な議論につなげることができる。3. 自分自身で発展的に考えたことを、口頭発表やライティングを通じて日本語と英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語J(AW) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 この授業では、アカデミックなテーマに関して英語でエッセイやリサーチ・ペーパーを執筆することができる。その際、アカデミック・ライティングに必要な語彙や表現に加えて、文献調査の方法を習得する。また、適切なパラグラフの構成能力を磨き、資料による裏づけのある客観的な文章を英語で執筆する能力を養う。 | アカデミック・ライティングに必要な広範な語彙や表現を身につけることができる。必要な調査を行い、適切なパラグラフを構成した上で、資料による裏づけのある客観的な文章を英語で執筆することができる。（異文化理解・言語運用能力） | アカデミック・ライティングに必要な基礎的な語彙や表現を身につけることができる。必要な調査を行い、適切なパラグラフを構成した上で、資料による裏づけのある客観的な文章を平易な英語で執筆することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語K(AW) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 この授業では、アカデミックなテーマに関して英語でエッセイやリサーチ・ペーパーを執筆することができる。その際、アカデミック・ライティングに必要な語彙や表現に加えて、文献調査の方法を習得する。また、適切なパラグラフの構成能力を磨き、資料による裏づけのある客観的な文章を英語で執筆する能力を養う。 | アカデミック・ライティングに必要な広範な語彙や表現を身につけることができる。必要な調査を行い、適切なパラグラフを構成した上で、資料による裏づけのある客観的な文章を英語で執筆することができる。（異文化理解・言語運用能力） | アカデミック・ライティングに必要な基礎的な語彙や表現を身につけることができる。必要な調査を行い、適切なパラグラフを構成した上で、資料による裏づけのある客観的な文章を平易な英語で執筆することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際英語L(MS) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 この授業では、アカデミックな内容をテーマとし、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング能力を総合的に向上させることを目指す。アカデミックな内容を扱いつつ専門的な知識を身につけ、それを踏まえて自身の考えや、新たに調査した内容を、ライティングやプレゼンテーション、およびディスカッションを通じてアウトプットする能力を身につける。 | アカデミックな内容を英語で理解し、専門的な知識を身につけることができる。それを踏まえて自身の考えや、新たに調査した内容を、ライティングやプレゼンテーション、およびディスカッションを通じて英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） | アカデミックな内容を英語で理解し、専門的な知識を身につけることができる。それを踏まえて自身の考えや、新たに調査した内容を、ライティングやプレゼンテーション、およびディスカッションを通じて平易な英語で表現することができる。（異文化理解・言語運用能力） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年度 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------------|-------------|------|-----|---|---|--|
| フランス語初級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。この授業は教養科目として開講されているフランス語Ⅰ・Ⅱとは別に、フランス語を重点的に学習しようとする学生に対して提供される。フランス語に親しみながら、基礎的な発音の練習、リスニングの練習を行い、初歩的な会話を学ぶ。 | 仏検5級レベルの初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。初歩的な文、挨拶等日常的な応答表現、数について。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検5級レベルの初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことが最低限できる。初歩的な文、挨拶等日常的な応答表現、数について。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語初級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。この授業は教養科目として開講されているフランス語Ⅰ・Ⅱとは別にフランス語を重点的に学習しようとする学生に対して提供される。Aの内容を踏まえて、初歩的な会話と書き言葉を学ぶ。 | 仏検4級レベルの基礎的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。基礎的な文、日常使われる基礎的応答表現、数について。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検4級レベルの初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことが最低限できる。基礎的な文、日常使われる基礎的応答表現、数について。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語中級A(文法)Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。主に初級文法の事項を確認しながら、フランス語の運用能力の向上を目指す。基礎事項の復習・整理から始め、1年次で学んだ文法事項をさらに深めてゆき、中級の文法に進んでいく。 | フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、読み、聞き、話し、書くことができる。基本的文法知識全般。動詞については、直説法、命令法、定型な条件法現在。(異文化理解・言語運用能力) | フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、読み、聞き、話し、書くことが最低限できる。基本的文法知識全般。動詞については、直説法、命令法、定型な条件法現在。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語中級A(文法)Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。Aの内容を踏まえて、初級文法の事項を確認しながら、フランス語の運用能力の向上を目指す。1年次で学んだ文法事項をさらに深めてゆき、中級の文法へ進んでいく。 | フランス語中級A(文法)Ⅰを踏まえ、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、読み、聞き、話し、書くことができる。基本的文法知識全般。動詞については、直説法、命令法、定型な条件法現在。(異文化理解・言語運用能力) | フランス語中級A(文法)Ⅰを踏まえ、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、読み、聞き、話し、書くことが最低限できる。基本的文法知識全般。動詞については、直説法、命令法、定型な条件法現在。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語中級B(会話)Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。初級レベルでの学習内容をもとに、中級レベルの会話を学ぶ。日常的なポキャブラリーを増やし、会話に必要なリスニング力も向上させる。 | フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、聞き、話すことができる。簡単な会話を聞いて内容を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) | フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、聞き、話すことが最低限できる。簡単な会話を聞いて内容を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語中級B(会話)Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。Iの内容を踏まえて、中級レベルの会話を学ぶ。ポキャブラリーを増やし、会話に必要なリスニング力も向上させる。日常のさまざまな場面に応じて、自分の意思をはっきりと表現できるような、ある程度まとまった内容を話す練習を行う。 | フランス語中級B(会話)Ⅰを踏まえ、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、聞き、話すことができる。簡単な会話を聞いて内容を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) | フランス語中級B(会話)Ⅰを踏まえ、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、仏検3級レベルの簡単な日常表現を理解し、聞き、話すことが最低限できる。簡単な会話を聞いて内容を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習A(会話) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。ポキャブラリーを拡充しながら表現力、会話力を磨く。 | 仏検準2級程度の、日常生活における平易なフランス語を、聞き、話すことができる。日常的な平易な会話を理解できる。簡単な応答ができる。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検準2級程度の、日常生活における平易なフランス語を、聞き、話すことが最低限できる。日常的な平易な会話を理解できる。簡単な応答ができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習B(リスニング) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行います。ポキャブラリーを拡充しながらリスニングの力をつけ、表現力、会話力を磨く。 | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話すことができる。一般的な事柄に関する文章を聞いて、その内容を理解できる。日常生活のさまざまな話題について、基本的な会話ができる。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話すことが最低限できる。一般的な事柄に関する文章を聞いて、その内容を理解できる。日常生活のさまざまな話題について、基本的な会話ができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習C(講読) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌の記事、文学作品などを扱いながら読解力を伸ばし、文法事項も正しく運用できることを目指す。 | 仏検準2級程度の、日常生活における平易なフランス語を、聞き、話すことができる。一般的な内容で、ある程度の長さの平易なフランス語の文章を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検準2級程度の、日常生活における平易なフランス語を、聞き、話すことが最低限できる。一般的な内容で、ある程度の長さの平易なフランス語の文章を理解できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習D(文法) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・専門発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌の記事、文学作品などを扱いながら読解力を伸ばし、とくに文法事項も正しく運用できることを目指す。 | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる。前置詞や動詞の選択・活用などについて、やや高度な文法知識が要求される。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことが最低限できる。前置詞や動詞の選択・活用などについて、やや高度な文法知識が要求される。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習E(時事) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌の記事などを扱いながら読解力を伸ばし、ポキャブラリーを拡充し、文法事項も正しく運用できることを目指す。 | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、時事的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、時事的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことが最低限できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習F(作文) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行います。ポキャブラリーを拡充しながら表現力を磨き、文法事項も正しく運用して、作文をできることを目指す。 | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的な事柄からについて、伝えたい内容を基本的なフランス語で書き表すことができる。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検2級程度の、日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的な事柄からについて、伝えたい内容を基本的なフランス語で書き表すことが最低限できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習G(総合) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌の記事、文学作品などを扱いながら読解力を伸ばし、ポキャブラリーを拡充しながら表現力を磨き、文法事項も正しく運用できることを目指す。 | 仏検準2級レベルの一般的な内容で、ある程度の長さの平易なフランス語の文章を理解し、日常生活における平易な文や語句を正しく書け、日常的な平易な会話を理解し、簡単な応答ができる。基本的文法事項全般についての十分な知識がある。(異文化理解・言語運用能力) | 仏検準2級レベルの一般的な内容で、ある程度の長さの平易なフランス語の文章を理解し、日常生活における平易な文や語句を正しく書け、日常的な平易な会話を理解し、簡単な応答が最低限できる。基本的文法事項全般についての知識がある。(異文化理解・言語運用能力) |
| フランス語特別演習H(資格対策) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つフランス語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌の記事、文学作品などを扱いながら読解力を伸ばし、ポキャブラリーを拡充しながら表現力、会話力を磨き、文法事項も正しく運用して、フランス語検定などの資格の取得を目指す。 | 仏検2級レベルの日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる。仏検2級などの資格取得を目指す(異文化理解・言語運用能力) | 仏検2級レベルの日常生活や社会生活を営む上で必要なフランス語を理解し、一般的なフランス語を聞き、話し、読み、書くことが最低限できる。仏検2級などの資格取得を目指す(異文化理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------------|----------------|------|-----|--|---|--|
| 中国語初級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 教養教育科目の中国語Ⅰを履修している学生を対象に、基礎発音・リスニングの応用的な練習を行うとともに初級会話を学ぶ。 | 発音を表記する表音ローマ字を読むことができ、中国語を正しく発音できるようになる。また、短い会話文が暗誦できる。 基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。(異文化理解・言語運用能力) | 発音を表記する表音ローマ字を読むことができ、中国語を正しく発音できるようになる。 基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語初級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 教養教育科目の中国語Ⅱを履修している学生を対象に、基礎発音・リスニングの応用的な練習を行うとともに初級会話を学ぶ。 | 発音を表記する表音ローマ字を読むことができ、中国語を正しく発音できるようになる。また、短い会話文が暗誦できる。 基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。(異文化理解・言語運用能力) | 発音を表記する表音ローマ字を読むことができ、中国語を正しく発音できるようになる。 基礎的な日常会話とそれに対応するリスニングができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語中級A(文法)Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・専門基幹科目です。 日本語や英語と異なり、語尾変化がなく語順によって意味が決まるという中国語の特質(即ち文法)を理解することを主眼とする。主に初級レベルでの学習内容をもとに既習の基本文型を復習、整理し、新たな基本文型を学び、実践的な応用練習を行う。あわせて表音ローマ字を伴わない漢字のみの文を音読できるよう練習を行う。 | 基本文型を体系的に理解し、実践的に使うことができる。 漢字のみの文を正しい発音で音読できる。(異文化理解・言語運用能力) | やさしい読み物が読めるようになる。 漢字のみの文を正しい発音で音読できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語中級A(文法)Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 日本語や英語と異なり、語尾変化がなく語順によって意味が決まるという中国語の特質(即ち文法)を理解することを主眼とする。前提科目の学習内容をふまえ、更に高度の文型を学び、実践的な応用練習を行う。あわせて短文の講読を行い、基礎的な講読の能力を養う。 | 基本文型を体系的に理解し、実践的に使うことができる。基本文型を応用し、短い文章の読解ができ、まとまった文の文意を理解できる。 (異文化理解・言語運用能力) | 基本文型を体系的に理解し、やさしい読み物が読めるようになる。語学を介した異文化理解ができるようになる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語中級B(会話)Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業は、日常生活や仕事の上でよく使われる会話の場を設定し、実践的な語学力を身につける。具体的には、文法事項と表現法を解説しながら会話・作文・リスニングなどのトレーニングを行う。 | 中国語の中級レベルの日常会話の表現を修得し、実践的な会話とリスニングの力を身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) | 中国語の中級レベルの語彙や文法を理解し、実践的な運用を一定程度行うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語中級B(会話)Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 日常生活や仕事の上でよく使われる会話の場を設定し、基本的な表現を自分で正確に運用できるように練習する。また、翻訳・作文・リスニング練習を通して中国語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。 | 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な会話と文法の力を身に付けることができる。 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。(異文化理解・言語運用能力) | 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習A(会話) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中級レベルでの学習内容をもとに、上級レベルの実践の場で役立つ中国語力を養うためにビジネス会話・通訳等の訓練を行う。あわせて中国人の思考方法、言語習慣等を学ぶ。 | 日常生活や仕事の上でよく使われる会話表現を正確に運用でき、より高度なコミュニケーション能力を身に付けることができるようになる。あわせて、中国語圏の文化に関する一般的な事象について正確に説明することができる。(異文化理解・言語運用能力) | より高度なコミュニケーション能力を一定程度身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習B(リスニング) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中級レベルでの学習内容をもとに上級レベルの実践の場で役立つ中国語力を養うためにリスニング、会話等の訓練を行う。なかでも通訳を中心に、あわせて中国人の思考方法、言語習慣等を学ぶ。 | より高度なコミュニケーション能力を身に付けることができるようになる。あわせて、中国語圏の文化に関する一般的な事象について正確に説明することができる。(異文化理解・言語運用能力) | より高度なリスニング能力を一定程度身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習C(講読) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中国語を母語とせず、原則として中国語中級の単位を一つ以上取得済みの学生を対象とする。中国語の基礎をひととおり学んだ段階で、中国語による文章の読解に挑戦することを目的とする。文法や発音を復習し、聴き取り能力を高めながら、翻訳の方法をしっかりと身につけていく。 | ・中国語で書かれた文章を理解し、発音ができる。(中検2級レベル)。 ・テキストの中国語を、適切な日本語に翻訳することができる。 ・テキストの中国語を、完璧に聴き取ることができる。 ・テキストの中国語を、正しい発音で音読することができる。 ・テキストで扱われている中国の社会状況について、十分に理解している。(異文化理解・言語運用能力) | ・テキストの中国語を、基本的な日本語に翻訳することができる。 ・テキストの中国語を、基本的な範囲で聴き取ることができる。 ・テキストの中国語を音読することができる。 ・テキストで扱われている中国の社会状況について、一定の知識を有している。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習D(文法) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中国語を母語とせず、原則として中国語中級の単位を一つ以上取得済みの学生を対象とする。中国語の基礎をひととおり学んだ段階で、中国語による文章の読解に挑戦することを目的とする。文法や発音を復習し、聴き取り能力を高めながら、翻訳の方法をしっかりと身につけていく。 | 中国語で書かれた文章を理解し、発音ができる。(中検2級レベル)。 ・テキストの中国語を、適切な日本語に翻訳することができる。(異文化理解・言語運用能力) | ・テキストの中国語を、基本的な日本語に翻訳することができる。 ・テキストの中国語を、基本的な範囲で聴き取ることができる。 ・テキストで扱われている中国の社会状況について、一定の知識を有している。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習E(時事) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中級レベルの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つ中国語の運用能力の訓練を行う。新聞や週刊誌などを扱いながら読解力を伸ばし、時事問題への関心・理解を深め、文章の表現力を磨き、文法事項も正しく運用できることを目指す。 | 中国語の基本文法や構文を理解し、より高度な表現力を身に付けることができる。あわせて中国語圏の文化に関する一般的な事象について、正確に説明することができる。(異文化理解・言語運用能力) | より実践的な中国語力を一定程度身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習F(作文) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中級レベルでの学習をもとに上級レベルの実践の場で役立つ中国語の運用能力の訓練を行う。新聞や文学作品などを扱いながら読解力を伸ばし、作文の表現力を磨き、文法事項も正しく運用できることを目指す。 | より実践的な中国語の作文能力を身に付けることができるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | より実践的な中国語力を一定程度身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 中国語特別演習G(総合) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 「話す、聞く、読む、書く」の各分野の応用練習により、高度で豊かな語学力を養う。テーマを設けてのディベート・ディスカッションも取り入れる。主に「話す、聞く」を総合した練習を行い、あわせて音読練習を行う。 | より総合的な中国語力を身に付けることができるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | より実践的な中国語力を一定程度身に付けることができる。(異文化理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------------|-------------|------|-----|---|--|---|
| 中国語特別演習H (資格対策) | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 1 | この科目は上級・発展科目です。 中国語の語学力を客観的に測る手段として中国語検定試験、HSK（中国語レベル試験）などがある。検定試験を受験する学生に対する対策練習を中心に、中国語検定試験対策としては文法問題・リスニング問題などの練習を行い、あわせて音読練習を行う。 | 中国語の基本文法や構文を理解し、より高度なコミュニケーション能力を身につけることができる。あわせて中国語圏の文化に関する一般的な事象について、正確に説明することができる。 (異文化理解・言語運用能力) | より実践的な中国語力を一定程度身につけることができる。 (異文化理解・言語運用能力) |
| ドイツ語初級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 この授業は、「ドイツ語初級Ⅰ」を選択する学生に対して提供されるものである。本科目の重点は、初級レベルにおいて4技能をバランスよく修得しつつ、とくにオーラル・コミュニケーションとしての運用能力を身につけることにある。 | 初歩レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | 初歩レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな困難なくできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) |
| ドイツ語初級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 この授業は、「ドイツ語初級Ⅰ」の継続科目であり、ドイツ語を選択外国語として学習する学生に対して提供されるものである。本科目の重点は、初級レベルにおいて4技能をバランスよく修得しつつ、とくにオーラル・コミュニケーションとしての運用能力を身につけることにある。 | 初級レベルのドイツ語口語能力の口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | 初級レベルのドイツ語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな問題なくできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) |
| ドイツ語中級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業は、初級レベルのドイツ語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級において身に付けた能力をふまえて、本科目では、中級レベルのドイツ語の4技能についての運用能力を総合的に向上させることを目的とする。 | ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) | ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| ドイツ語中級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業は、「ドイツ語中級Ⅰ」の継続科目であり、初級レベルのドイツ語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級において身に付けた能力をふまえて、本科目では、中級レベルのドイツ語の4技能についての運用能力を総合的に向上させることを目的とする。 | ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) | ドイツ語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| イタリア語初級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 この授業は、「イタリア語初級Ⅰ」を選択外国語として学習する学生に対して提供されるものである。本科目の重点は、初級レベルにおいて4技能をバランスよく修得しつつ、とくにオーラル・コミュニケーションとしての運用能力を身につけることにある。 | 初歩レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | 初歩レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな困難なくできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) |
| イタリア語初級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 1 | この科目は入門・基礎科目です。 この授業は、「イタリア語初級Ⅰ」の継続科目であり、イタリア語を選択外国語として学習する学生に対して提供されるものである。本科目の重点は、初級レベルにおいて4技能をバランスよく修得しつつ、とくにオーラル・コミュニケーションとしての運用能力を身につけることにある。 | 初級レベルのイタリア語口語能力の口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを正確にできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) | 初級レベルのイタリア語口語能力を身に付け、基本的な会話のやり取りを大きな問題なくできるようになる。(異文化理解・言語運用能力) |
| イタリア語中級Ⅰ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業は、初級レベルのイタリア語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級において身に付けた能力をふまえて、本科目では、中級レベルのイタリア語の4技能についての運用能力を総合的に向上させることを目的とする。 | イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。 (異文化理解・言語運用能力) | イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| イタリア語中級Ⅱ | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 この授業は、「イタリア語中級Ⅰ」の継続科目であり、初級レベルのイタリア語をすでに学習済みの学生を対象に開講される。初級において身に付けた能力をふまえて、本科目では、中級レベルのイタリア語の4技能についての運用能力を総合的に向上させることを目的とする。 | イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を体系的に理解するとともに、コミュニケーションにおいても実践的に使うことができる。 (異文化理解・言語運用能力) | イタリア語の初級文法を身に付け、基本文型を理解するとともに、コミュニケーションにおいても大きな困難なく使うことができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 日本事情（留学生対象） | 国際学部 外国語等科目 | 1 | 2 | この科目は入門・基礎科目です。 日本の歴史や文化について学び、留学生として必要な日本に関する知識を養うことを目的とする。日本の歴史、文化についての基礎的な知識を得るとともに、日本人の生活習慣、もの見方や行動様式などについての文献を読み、自国の状況と照らし合わせながら、理解を深める。 | 1. 外国人留学生在が日本で学生生活・社会生活を送る上で必要な、日本の社会・風俗・習慣などにつき、参考文献を通して知識を得、一定の見識を養うことができる。また、その知識・知見を或る程度、説明することができる。 2. 口頭発表のために必要な参考資料を収集する方法を十分に会得している。 3. レジュメの作成法につき、習熟している。(異文化理解・言語運用能力) | 1. 外国人留学生在が日本で学生生活・社会生活を送る上で必要な、日本の社会・風俗・習慣などにつき、参考文献を通して知識を得、一定の見識を養うことができる。 2. 口頭発表のために必要な参考資料を収集することができる。 3. レジュメの作成法につき、一定程度会得している。(異文化理解・言語運用能力) |
| 日本語A（文章表現・留学生対象） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 研究のテーマ選び、資料収集、アウトラインの作成、レポート執筆までの各プロセスをタスク形式で進めていく。また、それぞれのプロセスにおいて必要な日本語の表現や規則について学ぶ。 | 自分でテーマを選び、テーマに関する資料を収集・分析し、レポートや論文などの論理的な文章を日本語で書くスキルに習熟することができる。(異文化理解・言語運用能力) | 自分でテーマを選び、テーマに関する資料を収集・分析し、レポートや論文などの論理的な文章を日本語で書く基本的なスキルを身につけることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 日本語B（口頭表現・留学生対象） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 自分で選んだテーマにしたがって口頭発表を行い、相互評価を行う。その他、情報交換、意見交換の発表の仕方、質疑応答の仕方について理解したうえで、練習を行う。 | 聞き手を意識しながら、論理的な内容を明確に伝えるスキルに習熟することができる。 口頭発表の内容を十分に理解し、テーマに沿って的確に質疑応答ができる。(異文化理解・言語運用能力) | 聞き手を意識しながら、論理的な内容を明確に伝える基本的なスキルを身につけることができる。 口頭発表の内容を概ね理解し、テーマに沿って質疑応答ができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| 日本語C（ビジネスマナーと言語表現・留学生対象） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 ビジネスマナー、日本文化に関する情報を理解し、出身文化との違いを把握したり、他文化と比較し、理解を深める。また、各週、または隔週で、日本語の言語行動をいくつか機能別に復習し、ビジネス場面を念頭に練習を行う。 | 日本のビジネスマナーを十分に理解し、ビジネス場面特有の語彙や表現に習熟し、運用できる。(異文化理解・言語運用能力) | 日本のビジネスマナーを理解し、基本的なビジネス場面特有の語彙や表現を身につけ、運用できる。(異文化理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------------------|-------------|------|-----|---|---|--|
| 日本語D（ビジネスコミュニケーション・留学生対象） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 電話やメール、ビジネス文書など仕事で 사용되는日本語を取り上げ、ビジネス上のコミュニケーションの特徴について学ぶ。また、さまざまな資料を用いて日本人の仕事観についても理解を深める。 | 電話やメールなどで使用されるビジネス場面特有の表現を十分に理解し、それを場面に応じて適切に運用することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 電話やメールなどで使用される基本的なビジネス場面特有の表現を理解し、それを場面に応じて運用することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学概論A（言語的特徴） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 日本語がどのような特徴をもっているのかを意識的に考える。特に語彙（和語・漢語・外来語などの語種や位相語など）を中心に、文字・表記、音韻などの日本語の特徴について理解する。さらに、日本語の地域差、新たに起こりつつある日本語の変化についても理解する。 | 日本語の音韻的、語彙的な側面の知識を修得し、日本語の特徴について具体例を挙げながら十分に説明することができる。 修得した知識を運用面でも活用できる。（異文化理解・言語運用能力） | 日本語の音韻的、語彙的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の特徴について説明することができる。 修得した知識を運用面でも活用できる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学概論B（仕組みと表現） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 日本語がどのような特徴をもっているのかを意識的に考える。特に文法の面を中心に、動詞の種類や授受表現、形容詞の特徴やコ・ソ・アの使い分けなど、日本語教育において必要な文法規則について理解する。 | 日本語の文法的な側面の知識を修得し、日本語の文法的な特徴（特に活用や動詞の種類、授受表現、形容詞の特徴、コ・ソ・アの使い分け）について具体例を挙げながら十分に説明することができる。 修得した知識を運用面でも活用できる。（異文化理解・言語運用能力） | 日本語の文法的な側面の基本的な知識を修得し、日本語の文法的な特徴（特に活用や動詞の種類、授受表現、形容詞の特徴、コ・ソ・アの使い分け）について説明することができる。 修得した知識を運用面でも活用できる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学各論A（文字・表記） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 1 | この科目は中級・基幹科目です。 日本語が有している複雑な表記体系を理解し、漢字と仮名を中心にコンピュータ社会での漢字のあり方について考える。カタカナ表記の増加など、表記法の変化の要因について考え、今後の日本語の表記法についても理解する。 | 日本語の文字・表記に関するいくつかの問題を、歴史的な変遷を含めて十分に理解し、説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 日本語の文字・表記に関する基本的な問題を、歴史的な変遷を含めて理解し、説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学各論B（音声・音韻） | 国際学部 外国語等科目 | 2 | 2 | この科目は中級・基幹科目です。 人間が言語音を作り出す際どのような音声器官をはたらかせているか、言語音発生仕組みについて理解し、音声器官をどのように動かして、日本語の母音や子音が作り出されているかを確認する。また、IPA（国際音声記号）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と日本語の音声の違いについても理解する。さらに、日本語の音韻的特徴（母音と子音がどのように組み合わせられて音節を構成しているか、拍という概念、促音や撥音、ガ行鼻濁音など）、アクセントやイントネーション、日本語音の地域差、日本語の音の歴史的な変遷についても理解する。 | 言語音発生仕組みを十分に理解することができる。 国際音声記号（IPA）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と対照させながら、日本語の発音の特徴を十分に説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 言語音発生仕組みの基本的な仕組みを理解することができる。 国際音声記号（IPA）をもちいて日本語を表記し、他の言語の音声と対照させながら、日本語の発音の基本的な特徴を説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学各論C（文法） | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 2 | この科目は上級・発展科目です。 日本語にはどのような文法規則があるか、具体的な例に基づいて理解する。さまざまな文法事項の中から日本語の特徴を考える際に重要であると思われる助詞のはたらきや文末表現について、具体的な用例を挙げながらその法則性を理解する。 | 日本語の特徴を、文法の側面（特に助詞のはたらきや文末表現）から具体例を挙げながら適切に説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 日本語の特徴を、基本的な文法の側面（特に助詞のはたらきや文末表現）から説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語学各論D（日本語史） | 国際学部 外国語等科目 | 3 | 2 | この科目は上級・発展科目です。 日本語の歴史的な変化について、音韻、表記、語彙、文法、語法、待遇表現、文体などさまざまな観点からいくつかを取り上げて考えていく。近世から現代までの変化を中心に、現代日本語がどのようにして形成されてきたか、江戸語がどのような変化を経て東京語となったのか、近代日本語がどのような性格をもっているのかなどを理解する。さらに、日本語がこれからのような方向へ変化しつつあるのかなどについても考える。 | 歴史上に残る言語資料を糸口に、日本語の歴史に関する知識を十分に理解し、説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） | 歴史上に残る言語資料を糸口に、日本語の歴史に関する基本的な知識を理解し、説明することができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 国際学入門 | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 この科目は、国際学部で学ぶことができる3つのコース、17の専攻分野のことによって、各コース、専攻分野の学びを概観するとともに、その特徴について把握し、コース選択や学修の重点の発見に資することを目的とする。 | 3つのコース、17の専攻分野について、個々の講義を通してその特徴を正確に理解し、自らの関心に引き付けて考察することができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） | 3つのコース、17の専攻分野について、個々の講義を通してその特徴をおおよそ理解し、自らの関心に引き付けて考察することができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） |
| 地域研究入門A（地域と国際文化） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 本講義では世界の諸地域間、とりわけ国家間の関係を文化という視点から論じる。急速なグローバル化が進む今日の世界においては、国境を超えた、政治、経済活動を含む広い意味での、文化のグローバル化が進行しているといえよう。こうしたグローバル化し、世界に共通といえるような、ある種普遍的ともいえる文化が広がる一方で、逆に特定の地域や固有の集団に独自の文化が再活性化されるといった現象も散見される。ここではそうした文化の複雑な営みおよび多元的で重層的な諸相について、具体的な事例を検討しつつ論じる。 | 国際関係を文化で見た場合における「文化のグローバル化」や「グローバル化のなかの文化」という現象に関する知識を深め、その複雑で重層的な諸相が理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解） | 国際関係を文化で見た場合における「文化のグローバル化」や「グローバル化のなかの文化」という現象に関する知識を深め、その複雑で重層的な諸相が理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解） |
| 地域研究入門B（地域情報分析） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 この科目では、エリア・スタディーズのひとつの方法論として地誌学をとりあげ、その基礎的内容を包括的に教授する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。したがってこの科目では、地域を地誌学的に説明するための理論として地域論、空間論、景観論といった地理学の基本的理論を紹介し、同時に地域を分析するための様々な手法を解説する。 | 1.地形図などの地図に記載された内容を正確に理解し、詳細に説明できる。 2.地域を地誌学的に説明するための基本的理論である地域論、空間論、景観論などを応用して、様々な地域を理論的かつ的確に説明できる。 3.統計、GISなどの専門的手法を用いて、地域を地図や文章で的確に表現できる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解） | 1.地形図などの地図に記載された基本的な内容を理解し説明できる。 2.地域を地誌学的に説明するための基本的理論である地域論、空間論、景観論などを用いて、特定の地域を必要最低限度説明できる。 3.統計、GISなどの基本的手法を用いて、地域を地図や文章で必要最低限度表現できる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------------------------------|-------------|------|-----|--|--|---|
| 地域と歴史入門A（日本史） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。原始から現代に至る日本史を概説する。そのため、原始・古代・中世・近世・近代・現代という大きな時期区分と、その下にある鎌倉時代などの時代区分を行い、各時代の特徴は何か、ある時代から次の時代への転換・推移の基本的な要因は何か、を中心に講義する。 | 日本史の時代区分・時期区分と、各時代の特徴、推移の基本的要因について、十分に理解し説明できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) | 日本史の時代区分・時期区分と、各時代の特徴、推移の基本的要因について、理解し説明できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| 地域と歴史入門B（世界史） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。「グローバル化」の時代といわれる現代社会が、どのような歴史的プロセスを経て形成されたのか。それぞれの地域がなぜ、どのようにして結びつくようになったのか。この世界の結びつき方の歴史とその現在への影響について、「モノ」を通してみた資本主義のあり方や、コミュニケーションの変化など、いくつかのトピックを取り上げながら考える。 | 「グローバル化」が現在に限られたものではなく、長い歴史的なプロセスのなかで展開し、変化してきたものであることを正確に理解し、具体的な例を挙げながら説明することができる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) | 「グローバル化」が現在に限られたものではなく、長い歴史的なプロセスのなかで展開し、変化してきたものであることを理解することができる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| Introduction to Area Studies | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目（GSE）です。このコースは、エアスタディーズの分野の入門コースであり、基礎的な知識を身につけ、この分野の方向付けを行う機会を提供するものである。アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界各地の社会、経済、政治、外交問題を英語で比較、参照し、その関係を理解することを目的としています。 | グローバルな社会・経済・政治・外交問題の関連性について、比較や参照を英語で十分に説明できる。(異文化理解・多様性理解) | グローバルな社会・経済・政治・外交問題の関連性について、比較や参照を英語で最低限に説明できる。(異文化理解・多様性理解) |
| コミュニケーション論入門A（世界の英語） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。世界各地に広がった多様な英語の変種を、世界諸英語（world Englishes）と呼び、世界は、ある地域における英語の使用度合いによって、次の3つに大別される。それらは1）母語としての英語を使用する英語国：イギリス、アメリカ、アイルランド、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど、2）母語ではないが多言語状態で英語が第2言語や公用語として重要な役割を果たしてきた国や地域：インド、シンガポール、フィリピン、ナイジェリアなど、3）国際補助語としての英語の重要性を認識し、習得に熱心な国や地域：中国、日本、ロシア、イスラエル、スウェーデン、ドイツなどである。外国語としての使用地域の英語を含め、世界各地で使用されている英語は、多様な民族と地域の文化を反映している。このように多様な諸特徴を持つ国際語としての英語について、これらの3地域の諸特徴を理解する。そして日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考える。 | 多様な民族と地域の文化を反映している世界語（global language）としての英語の特徴を体系的に理解することができる。(知識、理解)日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考えることができる。(異文化理解・多様性理解) | 多様な民族と地域の文化を反映している世界語（global language）としての英語の基本的な特徴を理解することができる。(知識、理解)日本人としてどのように英語に取り組むべきかを考えることができる。(異文化理解・多様性理解) |
| コミュニケーション論入門B（ジェンダー） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。世界のことばの中には男女差があることが知られている。本講では、ことばとジェンダーの研究に焦点を当て、1）社会全般におけるフェミニズム運動に連動した研究、2）社会言語学における性差研究、3）人類学による民族誌学的研究のデータを言語学や社会言語学の立場から再構築した研究の3つの潮流について学習する。さらにテレビ、映画、新聞雑誌、広告、漫画や実際の会話を題材に、男女がどのように表現されているか、またどのようにことばを使用しているかを分析し、その背景となる文化・社会とのかかわりを考察する。これらを踏まえて世界におけるジェンダーに対する多様な考え方を理解し、社会に対して開かれた関心と態度を身につけ、また共感力を養う。 | 日英語における男女の言語使用の違いが社会の中の性別役割をどのように反映しているかについての諸理論を体系的に学習し、男女によるコミュニケーション方法の違いを説明できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 日英語における男女の言語使用の違いが社会の中の性別役割をどのように反映しているかについての諸理論の基礎的な知識を認識する。(異文化理解・多様性理解) |
| 国際コミュニケーション入門A（異文化コミュニケーション） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。人々の相互意思伝達において、文化に起因する要因がいかなる影響を及ぼしているかを学習する。授業では、文化摩擦、異文化適応、カルチャーショック、自文化中心主義、文化変容、アイデンティティ、価値、ステレオタイプ、偏見、といった重要概念を具体的な事例とともに理解する。さらに、言語や文化の異なる人間同士の相互交流の場としてビジネスを取り上げ、特にコミュニケーションの観点から、交渉や異文化摩擦などについて具体的な事例をもとに学習する。 | 1. 異文化コミュニケーションの重要概念を包括的に理解し、具体的な事例を挙げながら説明することができる。2. これまでに自身が体験した国内外でのコミュニケーションの問題やその克服を、授業で学んだ重要概念に触れながら説明することができる。3. 文化的背景が異なる人との関わりにおいて、より良い異文化コミュニケーションを実践することができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 異文化コミュニケーションの基本的な概念を理解し、具体的な事例を挙げながら説明することができる。2. これまでに自身が体験した国内外でのコミュニケーションの問題やその克服の例を、授業で学んだ基本的な概念に触れながら挙げるすることができる。3. 文化的背景が異なる人との関わりにおいて、より良い異文化コミュニケーションを実践することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 国際コミュニケーション入門B（言語と人間） | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションをはかる際に生じる諸特徴について理解する。言語は単にコミュニケーションの道具ではなく、「物の見方」の道具でもあるという側面から、言語学の成果と方法をもって、ことばの研究を通して文化について考察する。その主な内容は「コミュニケーションのメカニズム」、「言語コミュニケーション」、「非言語コミュニケーション」、「言語と思考」、「言語と認識」、「サピア・ウォーフの仮説」などで、これまでの研究の変遷と展望を概観する。 | コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法を体系的に理解し、身に付けることができる。(異文化理解・多様性理解) | コミュニケーションの諸理論について学習し、文化背景の異なる人々に対する開かれた心と態度、コミュニケーション方法の基礎的な知識を身に付けることができる。(異文化理解・多様性理解) |
| Introduction to Communication Studies | 国際学部 専門基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。コミュニケーション研究の分野における導入を行う。履修学生には基本的な知識を進展させ、この分野において自ら探究するための能力を養う。コミュニケーション研究における中心的トピックを取り上げつつ、人間のコミュニケーションのあり方についての理解を深める。 | 1. コミュニケーション研究に広くかかわる概念を説明し、応用することができるようになる。 2. コミュニケーション研究における中心的トピックの詳細を要約することができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 1. コミュニケーション研究にかかわる概念を説明し、応用できるようになる。 2. コミュニケーション研究における中心的トピックを要約できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------------------------------|-----------------|------|-----|---|---|---|
| 比較文化入門A (社会生活) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 地球が一つの共同体となりつつある今日、世界の多様な諸文化の中で生きる私たちにとって、文化の交流や相互理解が極めて重要な課題となっている。20世紀半ば頃から急速に発展したこの分野は、複数の文化を想定しつつ、比較という方法で、広い意味での文化現象を新たに捉え直そうとする試みといえよう。ここでは、この学問分野の成立の背景、歴史的発展、意義などをまず概略し、具体的な研究の事例を幾つか紹介しながら、そのなし得る貢献や可能性、限界や問題点を検討する。 | 世界の多様な諸文化を学びつつ、比較という手法を用いて自文化を含む様々な文化を相対化することで、文化の更なる理解を深めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 世界の多様な諸文化を学びつつ、比較という手法を用いて自文化を含む様々な文化を相対化することで、文化の更なる理解を深めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| 比較文化入門B (表象) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 ある特徴的な同一の文化的題材について、国・地域・人種・宗教などの相違によってどのように違った捉え方がなされるのか調査し、それらを比較検討することにより見えてくる文化の様相に考察を加える。また、文化の比較にはどのようなアプローチ方法や分析方法があるかを提示する。 | 文化を比較するアプローチや分析方法が理解できる。 具体的な文化比較を行うことができる。 適切な分析方法を使って文化比較のレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) | 文化を比較するアプローチや分析方法がある程度まで理解できる。 具体的な文化比較を基本程度には行うことができる。 分析方法を使った文化比較についての、基本レベルのレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 国際関係入門A (国際秩序) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 国際社会の秩序を形成している原則や規範について歴史的、理論的に考察し、社会科学の用語の正しい使用方法を学びつつ、国際関係論の基礎概念を習得する。「主権」のような基礎概念が歴史的にどのように形成されてきたかを理解することに注力し、そうした基礎概念を今日のグローバル化の進展で起こる新しい課題の考察に活用する思考法を習得する。 | 1. 国際関係論の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出し、国際関係論の基礎概念を用いて考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. 国際関係論の基礎概念について、基本的な事項を説明できる。 2. グローバリゼーションの進展によって起こる課題を見出すことができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際関係入門B (対外政策分析) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 国際社会のなかで個々の国家などのアクター（行為主体）がとる対外政策（外交政策）の決定過程分析に必要な理論について理解し、具体的な事例でそれを用い、考察する。対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムの基本的な考え方を理解する。理論は実際に起こった歴史事象から析出されたものなので、授業ではビデオなども利用して、具体的な事例の分析を行いながら考察する。 | 1. 対外政策の決定過程について理解し、国ごとの制度の違いを踏まえた説明ができる。 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、主要な理論に従って分析を行い、レポートを作成することができる。 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、代表的な論者をあげながら、それぞれの特徴を説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. 対外政策の決定過程について、基本的な事項を説明できる。 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、レポートを作成することができる。 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムについて、基本的な事項を説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| Introduction to Global Studies | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 国際関係は国家間の関係を基礎としつつも、現代の国際社会では地球規模の共通の課題を抱え、特定の地域の事象が全世界的な影響を持つなど、グローバルな視点に立った分析を不可欠としている。この科目では、今日のグローバル化の進展で起きる様々な事象について、国際関係論の理論を用いて、学際的に分析する手法を習得する。 | グローバル化の進展によって起こる事象を見出し、国際関係論の基礎概念を正確に用いて考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | グローバル化の進展によって起こる事象を見出し、国際関係論の基礎概念との関連を指摘することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 経済分析入門A (ミクロ経済学入門) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 経済学には、マクロ経済学とミクロ経済学という理論体系がある。本科目では、初級ミクロ経済学を学び、経済学的な物の考え方の土台を作ること目標とする。現実経済や社会の問題を、基礎的なミクロ経済理論を用いて説明し、考察できる力をつける。具体的には、消費者や企業といった経済主体の行動、両者が取引を行う市場について、さらには、市場の限界、政府の役割などについても学ぶ。新しい経済学とされる、ゲーム理論、行動経済学についても基本的な考え方も習得する。 | ミクロ経済学に関する基本的用語、基本的な図やグラフを応用して、現代経済における問題を深く考えることができる。 各経済主体の合理的な意思決定及び市場の役割と限界について理解し、経済全体の流れを発展的に分析することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | ミクロ経済学に関する基本的用語、基本的な図やグラフを応用して、現代経済における問題を考えることができる。 各経済主体の合理的な意思決定及び市場の役割と限界について理解し、経済全体の流れを分析することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 経済分析入門B (マクロ経済学入門) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 経済学には、マクロ経済学とミクロ経済学という理論体系がある。本科目では、初級マクロ経済学を学び、経済学的な物の考え方の土台を作ること目標とする。ミクロ経済学で学習した消費者や企業といった経済主体の活動の集大成の結果、経済全体がどう動くのか、考察する力をつける。具体的には、国の富（所得）や経済成長について学ぶとともに、労働市場（雇用と失業）、クレジット市場、金融システム、さらには、景気変動、マクロ経済政策について、基礎的なマクロ経済学的な考え方を習得する。 | マクロ経済学に関する基本的な用語を理解し、それらの用語を用いて現代経済の仕組みを的確に説明することができる。 マクロ経済学の知識や分析方法を用いて、実際の経済問題について発展的に考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | マクロ経済学に関する基本的な用語を理解し、それらの用語を用いて現代経済の仕組みを説明することができる。 マクロ経済学の知識や分析方法を用いて、実際の経済問題について考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| ジェンダー論A (表象) | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 日常的に目にする美術作品、写真、映画、アニメ、漫画、あるいは商業的目的で作られるポスターやコマーシャル・フィルムなどのなかで当たり前のように刷り込まれている文化的な性差を検証し、そうした性差がどのように作られてきたのか歴史的背景や地域による差異などを多角的に考察する。こうした表象がそれぞれの文化で「男性らしさ」「女性らしさ」というイメージを形成するのに果たした役割がいかに大きいかを実際の作例で検証することで現代の文化や社会をジェンダーという枠組みで再考することの意義を深く理解する。 | それぞれの日々を生きる存在としての人間の精神、その積み重ねとしての日常と歴史を表現の対象とする芸術作品を通して、ジェンダー理論を具体的な実感を伴い理解することが出来るようになる。 そして、自分の身近に存在する他の事象も習得したジェンダー理論を応用して、分析出来るようになる。(多様性理解・社会の仕組みの理解) | それぞれの日々を生きる存在としての人間の精神、その積み重ねとしての日常と歴史を表現の対象とする芸術作品を通して、ジェンダー理論を具体的な実感を伴い理解することが出来るようになる。(多様性理解・社会の仕組みの理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--|-----------------|---------|-----|---|---|--|
| ジェンダー論B （法律・経済と労働） | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 近年、女性の社会進出が自覚ましいと言われる。女性の家庭外での雇用就労が増え、自立した女性の生き方が可能になってきた。法制度も改正が続いている。だがそうした過程の進行は、その一方で、少子化の深刻化等さまざまな問題を生ぜしめている。なぜそうなるのだろうか。またそれらに対し、どのような対策がとられてきたのだろうか。授業では、女性労働を歴史的に考察し、女性が働くということそのものを根源的に問い直し、近年の女性労働がどのように変化してきたか、そこにはどのような問題、課題があるのか、またそうした女性労働に関わる法制度はどのように改正されてきたか等、日本の状況を中心に考察し、加えて必要に応じ、諸外国との比較も行う。経済・社会・法律の観点から、女性が働くことについての包括的な理解と知識を習得する。 | ジェンダーに大きく規定されてきた女性の生き方、働き方が、経済社会の進展とともにどう変化してきたか、現在どうなっているか、そこにはどのような問題があるのか等について理解することができる。 女性労働に関連する法律の知識を修得することができる。 授業で習得した女性労働に関する歴史・法制度を踏まえ、女性が働くということについての自らの考えを確立し、日本が抱える課題の解決方法を提案することが出来る。(多様性理解・社会の仕組みの理解) | ジェンダーに大きく規定されてきた女性の生き方、働き方が、経済社会の進展とともにどう変化してきたか、現在どうなっているか、そこにはどのような問題があるのか等について理解することができる。 女性労働に関連する法律の知識を修得することができる。(多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| ジェンダー論C （セクシュアリティ） | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 昨今の日本社会において、「ジェンダー・フリー」の言葉の使用をめぐって、「男らしさ」「女らしさ」を不問に付すことに関して、議論を呼んでいる。そもそも「男」「女」は明確に分けられるのだろうか。この授業では、性的存在としての個人の自由意志や性的人権を考察し、このセクシュアリティにおける性的自立について考える。ジェンダーとセクシュアリティに関する思い込みを解体するような理論的枠組みを学んだ上で、セクシュアル・マイノリティ当事者の声、マスメディアや映画などの表象文化を通してジェンダー、セクシャリティ、セクシャルマイノリティに対する知識を得る。 | ジェンダーとセクシュアリティについて、基本的な知識を習得することが出来る。 セクシャルマイノリティ(LGBT)に関する世界的潮流についての知識を習得することが出来る。 講義で学んだジェンダーとセクシャリティに関する理論を応用して、世の中様々な事象を自分で分析・考察出来る。 日本社会におけるセクシュアル・マイノリティの問題点を指摘することが出来る。 (多様性理解・社会の仕組みの理解) | ジェンダーとセクシュアリティについて、基本的な知識を習得することが出来る。 セクシャルマイノリティ(LGBT)に関する世界的潮流についての知識を習得することが出来る。 日本社会におけるセクシュアル・マイノリティの問題点を指摘することが出来る。 (多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| ジェンダー論D （地域と階層） | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 21世紀に入り、経済のグローバル化が進行し、国境を越えて経済的依存・相互影響が広がっている。そのプロセスの中で、国や地域の格差は拡大し、高度経済発展をしている中心的な国・地域は途上国などの周辺地域を経済的・政治的に支配していく。その過程で貧困層が増大し、自然環境の破壊が進みます。このような状況下で、世界の女性にはどのような問題に遭遇しているのだろうか。この授業では、さまざまな地域における女性の生産労働、再生産労働、開発参加、貧困、福祉、エンパワメントなどの問題を考察する。 | 女性/男性がおかれた社会的状況は、各地域でどのような相違があるのか、具体的には「ジェンダー」、「階級」、「カースト・民族」、「年齢」といった属性が、個人々の社会的達成にどのような影響を与えているのかを理解することが出来る。 世界の様々な地域の女性を取り巻く社会問題を読み解き、行動する力を養うことが出来る。(多様性理解・社会の仕組みの理解) | 女性/男性がおかれた社会的状況は、各地域でどのような相違があるのか、具体的には「ジェンダー」、「階級」、「カースト・民族」、「年齢」といった属性が、個人々の社会的達成にどのような影響を与えているのかを理解することが出来る。(多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| Introduction to GSE Communication Skills | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 この科目は、グローバル社会で求められる英語コミュニケーション・スキルを発展させることに重点を置く。授業では自らの考えや意見を英語で伝え、共有するための諸技能を改善するための機会を提供する。 | 1. 国際社会で円滑なコミュニケーションを図るために必要な事項を英語で十分に説明することができる。 2. 正確な英語で自分の意見を十分に述べることできる。(言語運用能力) | 1. 国際社会で円滑なコミュニケーションを図るために必要な事項を英語で最低限説明することができる。 2. 英語で自分の意見を最低限述べることできる。(言語運用能力) |
| Topics in GSE Communication Skills | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 この科目は、グローバル社会で求められる英語コミュニケーション・スキルを発展させることに重点を置く。授業では個人間のコミュニケーションを理解し、さまざまな状況において英語を用いる機会を提供する。 | 1. さまざまな場面における対人コミュニケーションの方法について英語で十分な説明ができる。 2. 具体的な場面で英語での対人コミュニケーションの方法を活用できる十分な力を示せる。(言語運用能力) | 1. さまざまな場面における対人コミュニケーションの方法について英語で最低限の説明ができる。 2. 具体的な場面で英語での対人コミュニケーションの方法を活用できる最低限の力を示せる。(言語運用能力) |
| GSE Introductory Research Seminar | 国際学部 専門 基礎科目 | 1 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 GSEプログラムでの学修にあたっての基本的な知識とスキルの修得によって、2年次以降のGSE基礎演習、国際専門演習のより専門的な学修への橋渡しを行う。研究テーマの設定の仕方、文献資料の収集と整理方法、文献の読み方、研究発表の方法、ディベートの実践、論文やレポート執筆のための基礎的知識と論旨の組み立て方などを具体的なテーマに沿って学ぶ。最終的に各自の関心に従って選択したテーマで小論文を完成させる。 | 教養・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための基本的技術を実践的に運用し、英語による文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などを、十分できるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 教養・基礎ゼミナールで学んだ大学で学ぶための基本的技術を実践的に運用し、英語による文献検索、資料収集、文献の批判的読解、発表、討論、レポートの作成などを、最低限できるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際事情/フィールドワーク | 国際学部 専門 基礎科目 | 1.2.3.4 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 本科目は、国際学部の学びにかかわるテーマにもとづく研修旅行を中心に構成される。その際、徹底的な事前学習を行い、十分な予備知識・問題意識を得たうえで、目的地へ向かうことになる。現地では、授業テーマに沿った見学、調査、交流を行う。帰国後は、参加者各自が報告書を作成し、その成果を総括する。 (4年次の履修は、原則として前期実施の場合に限られる。) | 実際に異文化と接した時に体験する様々なこと異なる社会や文化のあり方について、準備段階で学んだり考えたりしたことと突き合わせ、しっかりとその理解を定着させる。さらに特定分野に関して、現地調査に基づいた学問的知識を十分に深める。 現地の人々との会合等を持つなかで、異文化理解を深め、国際交流の在り方も学ぶことができるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 実際に異文化と接した時に体験する様々なこと異なる社会や文化のあり方について、準備段階で学んだり考えたりしたことと突き合わせ、その理解を定着させる。さらに特定分野に関して、現地調査に基づいた学問的知識を深める。 現地の人々との会合等を持つなかで、異文化理解を深め、国際交流の在り方も学ぶことができるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 現代世界の地誌A （日本・中国） | 国際学部 専門 基礎科目 | 2 | 2 | この科目は専門基礎科目です。 日本・アジアの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、日本・アジアの地域像を総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。 | 1. アジアの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。 2. 日本・アジアの各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本・中国の地誌を主体的かつ積極的に理解しようと日常的に心掛けている。 (異文化理解・多様性理解) | 1. アジアの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。 2. 日本・アジアの各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に取り組み、日本・中国の地誌を理解しようと努めている。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------------|-----------------|------|-----|---|--|--|
| 現代世界の地誌B （ヨーロッパ） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ヨーロッパの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、ヨーロッパの地域像を総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。 | 1. ヨーロッパの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。 2. ヨーロッパ各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの地誌を主体的かつ積極的に理解しようと日常的に心掛けている。 （異文化理解・多様性理解） | 1. ヨーロッパの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。 2. ヨーロッパ各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、ヨーロッパの地誌を理解しようと努めている。 。（異文化理解・多様性理解） |
| 現代世界の地誌C （アメリカ） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 アメリカの全体像とそれを構成する個々の地域の地域性について、地誌学的に講義する。地誌学とは地域の様々な事象を総合的に捉えて記述する地理学の一分野であり、地域を理解するための基礎的な学問である。そうした視座に立脚したうえで、アメリカの地域像を総合的に論じると同時に、個々の地域の地域差とその成立要因を解説する。 | 1. アメリカの全体像を一つの文化地域としての確に説明できる。 2. アメリカ各地の多様性とそれが形成された背景を、理論的かつ的確に説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、アメリカの地誌を主体的かつ積極的に理解しようと日常的に心掛けている。 | 1. アメリカの全体像を一つの文化地域としてある程度説明できる。 2. アメリカ各地の多様性とそれが形成された背景を、ある程度説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、アメリカの地誌を理解しようと努めている。 |
| 現代社会と文学A （日本） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 主に日本の近代・現代文学と現代社会との関わりを中心に検討し、そこから浮かびあがる問題・テーマについて幅広く考察する。また、「文学」以外にも広く現代社会と関わる文化や様々なジャンルの作品も積極的に活用する。 | 文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質を認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。 適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） | 文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質をある程度まで認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。 分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） |
| 現代社会と文学B （外国） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 「文学」は、それが誕生する時代の思潮や社会背景を反映し、同時に、いつの時代や社会にも通じる普遍性を持ちうる。古典や近代の作品も当時の社会状況を写し取り、その後の新たな解釈や評価を含みつつ、現代まで続いている。現代社会においてそれらの「文学」を解釈し考察することは、現代社会を読み解く鍵となり得る。その意味で、「文学」と現代社会の関係を読み解いていく。 | 文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質を認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。 適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） | 文学のリアリティや表現力を理解し、現代社会の本質をある程度まで認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。 分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） |
| 現代社会と芸術A （歴史） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 19世紀からヨーロッパで芸術は社会と日常生活の中で発展する。その発展の背景には様々な理由がある。1つに産業革命で豊かになったブルジョア達は自分の家に絵画や彫刻など装飾品として置く様になったことだ。また、市民は美術館やサロンへ足を運ぶようになる。この事情に基づいてこの授業では19世紀から現在にかけての芸術と社会の歴史を紹介する。それを通して、芸術が社会に与える意味について考察を深めることを目的とする。 | 1. 現代社会とヨーロッパの芸術について、その特質や時代を超えた影響力等を的確に理解し、説明できる。 2. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、現代社会とヨーロッパの芸術について、主体的かつ積極的に理解しようと努めている。 （異文化理解・多様性理解） | 1. 現代社会とヨーロッパの芸術について、その特質や時代をある程度確に理解し、説明できる。 2. 授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、現代社会とヨーロッパの芸術について、ある程度までは理解しようと努めている。 （異文化理解・多様性理解） |
| 現代社会と芸術B （ジェンダー） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 社会的・文化的な性差がいかにして形成されたかを見るのに美術ほど雄弁なものはない。本講義は新たなジェンダー的視点で諸地域の美術作品を読み直すことによって、今まで語られてこなかった歴史の別の世界が見えてくることを具体的な作品を分析することで明らかにする。そこから何故現代の社会でこうしたまなざしの見直しが必要であるかを考察する。 | 特定の地域の美術作品をジェンダーの観点から分析し、視覚的表現や視覚的情報に含まれる性差の問題を正確に捉えることができる。（異文化理解・多様性理解） | ヨーロッパの美術作品をジェンダーの観点から分析し、視覚的表現や視覚的情報に含まれる性差の問題をおおよそ捉えることができる。（異文化理解・多様性理解） |
| 国際関係史A（総論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ナショナリズムと国民国家、資本主義・市場経済と社会主義、植民地支配と脱植民地化、科学技術の発達、技術力および工業力に規定される現代の戦争の特質、大衆の政治参加・民主主義など、現代史における国家間の関係に多大な影響を及ぼした現象・運動に着目し、20世紀の国際関係史におけるダイナミックな変化に対する理解を深める。 | 19世紀末・20世紀はじめから今日に至るまで、国際関係の歴史や世界の様々な人々の生活に影響を与えてきた重要な思想・運動や社会の変動について理解できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 19世紀末・20世紀はじめから今日に至るまで、国際関係の歴史や世界の様々な人々の生活に影響を与えてきた重要な思想・運動や社会の変動に関する基礎的な事項について最低限理解できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 国際関係史B（各論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際関係史Iでの国際関係史の大きな流れに関する理解を前提に、第一次世界大戦、戦間期、第二次世界大戦、「冷戦」期や第三世界における変動など、20世紀の国際関係史における主要な出来事を時系列的に学ぶとともに、歴史の事実とその背景となる政治、経済、文化などの要因に関する理解を深める。 | 20世紀の国際関係史における主要な出来事、「国際関係史」で学んだこれまでの国際関係の歴史の様々な特徴を念頭において再検討し、理解できる（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） | 20世紀の国際関係史における主要な出来事に関する基礎的な事項を、「国際関係史」で学んだこれまでの国際関係の歴史の様々な特徴を念頭において再検討し、最低限理解できる（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） |
| 社会情報分析の基礎 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際社会関係の上級・発展科目履修に向けて、次のような社会情報を分析する基礎を学修する。世論の国際比較データによる国ごとの価値観や政治文化の違いの分析方法を理解し応用する。 マスメディアの議題設定効果、争点注目サイクルなどの分析概念を理解し応用する。 内外の人口動態データを比較し、その経済活動や政治への影響を考察する。 以上の社会情報と関連する研究所や政府・国際機関やデータベースのデータをダウンロードし、散布図、ヒストグラム、一覧表などで分かる形に加工する、などの手法を理解し応用する。 | 1. 世論の国際比較データによる国ごとの価値観や政治文化の違いを十分に説明できる。 2. マスメディアの議題設定効果、争点注目サイクルなどの分析概念を使いこなした説明ができる。 3. 内外の人口動態データを比較し、その経済活動や政治への影響について、自分の考えを十分に説明できる。 4. 以上の社会情報と関連する研究所や政府・国際機関やデータベースのデータをダウンロードし、散布図、ヒストグラム、一覧表などで分かる形に加工した資料を難なく作成できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 1. 世論の国際比較データによる国ごとの価値観や政治文化の違いを十分に説明できる。 2. マスメディアの議題設定効果、争点注目サイクルなどの分析概念を使った最低限の説明ができる。 3. 内外の人口動態データを比較し、その経済活動や政治への影響について、自分の考えについて最低限の説明ができる。 4. 以上の社会情報と関連する研究所や政府・国際機関やデータベースのデータをダウンロードし、散布図、ヒストグラム、一覧表などを最低限盛り込んだ資料を、時間をかければ作成できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------|-----------------|------|-----|--|---|--|
| 政治分析の基礎 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際社会関係の専門上級・発展科目履修に向けた基礎学力を養うことを目指して、政治の基本的な仕組みはどうなっているか、何が政治を動かすのか、数字やデータに基づいて政治をどう捉えるかなどについて、最新のメディア情報、世論調査、公式統計などに触れながら理解する。 | 1. 政治の基本的な仕組みはどうなっているか、何が政治を動かすのか、数字やデータに基づいて政治をどう捉えるかなどについて十分な説明ができる。 2. 最新のメディア情報、世論調査、公式統計などのデータを十分に使いこなせる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. 政治の基本的な仕組みはどうなっているか、何が政治を動かすのか、数字やデータに基づいて政治をどう捉えるかなどについて最低限の説明ができる。 2. 最新のメディア情報、世論調査、公式統計などのデータを最低限使える。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| グローバル経済論A（総論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 グローバル経済の仕組みを理解する導入的な学習を目指し、経済現象への関心を高め、自らの問題意識を高めることを目標とする。グローバル化時代において、ヒト、モノ、カネ、サービス、情報が容易に国境を越え、量的にも質的にも経済活動が進展し、多様化している。具体的には、国際労働力移動、国際貿易、多国籍企業の事業展開、金融・資本取引の国際化など、さまざまな形でグローバル化が進んでいる。また、世界貿易機関、国際通貨基金、世界銀行などの国際機関もグローバル経済の規律と発展のために重要な役割を果たしている。本科目では、グローバル経済の背後にある理論的・歴史的・政策的背景を概観するとともに、経済学の基礎的知識も応用することにより、グローバル経済の現実を理解する。 | グローバル化が進行する中でどのような経済的な動きが展開され、どのような問題が生じているかを概観し、現状への認識を高めることができる。 グローバル経済に関する身近な問題を通して、経済のグローバル化を自分の問題として認識し、考えることができる。 グローバル経済に関連する経済学の基礎知識や専門用語について理解し、それらを活用することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | グローバル化が進行する中でどのような経済的な動きが展開され、どのような問題が生じているかを概観し、現状への認識を一定程度高めることができる。 グローバル経済に関する身近な問題を考えることができる。 グローバル経済に関連する経済学の基礎知識や専門用語について理解できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| グローバル経済論B（各論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 現代グローバル経済の仕組みを理解するためには、グローバル経済の特性や国際貿易、国際金融のシステムを理解するとともに、グローバル経済の歴史的展開についての理解と基礎知識の修得も必要となる。本科目では、ブレトンウッズ（IMF・GATT）体制の成立、変動相場制への移行、ケインズ主義的経済政策から新自由主義的政策への経済政策の路線転換など、グローバル経済システムや経済政策の変遷を学ぶ。さらに、IT革命、金融資本主義の世界的展開、サブプライム問題、リーマンショックといったグローバル経済化の変遷とその構造的な問題を考察するとともに、EUやASEANに代表されるリージョナリズム（地域主義）的な域内経済協力・経済統合・連携の促進についても、地域経済論的な観点から学習する。 | 国際金融論における経済用語の意味、内容を的確に理解できる。 為替の決定理論、国際収支、国際金融システムなど国際金融に関する問題を、経済理論も理解したうえで、発展的に考察することができる。 ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際経済学に活用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に発展的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 国際金融論における経済用語の意味、内容を理解できる。 為替の決定理論、国際収支、国際金融システムなど国際金融に関する問題を、経済理論も理解したうえで、考察することができる。 ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際金融論に活用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 日本の社会A（近代社会の形成） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 主に日本の近現代社会の発展を、政治・経済などとともに文化・教育の側面から考察する。文化・教育の発展の歴史を通して、「日本の社会」の歴史的發展を見ていく。またその場合、ジェンダー・（女性）の視点を重視する。 | 日本の社会の成り立ちや歴史、またその特徴や性質等について十分に理解できる。 日本の社会について様々なテーマや問題点を考察できる。 適切な分析方法を使って日本の社会についてのレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) | 日本の社会の成り立ちや歴史、その特徴や性質等についてある程度まで理解できる。 日本の社会について様々なテーマや問題点をある程度考察できる。 分析方法を使って日本の社会についての、基本レベルのレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 日本の社会B（女性） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 「日本の社会」における「女性」の位置・有りようをよく表したフィクション作品を取り上げ、そこから「日本の社会」の持つ特質や問題点をあぶりだす。その際、とくに映画・ドラマ・アニメなどに登場する「女性」たちを取り上げ、恋愛・結婚、就職・子育て等について（女性と社会）との関係について分析・考察する。 | 日本の社会や（女性）の現在に至るまでの歴史や状況が理解できる。 日本の社会について様々なテーマや問題点を考察できる。 適切な分析方法を使って日本の社会についてのレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) | 日本の社会や（女性）の現在に至るまでの歴史や状況がある程度まで理解できる。 日本の社会について様々なテーマや問題点を基本レベルでは考察できる。 分析方法を使った日本の社会についての、基本レベルのレポートを作成できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 日本の歴史A（前近代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 古代から近世に至る日本を取り巻く国際・文化交流史を中心に講義する。東アジアを中心とした人とモノの移動に伴う政治・経済関係は、古代から近世にかけてどのように変動していったのか？をテーマに、国際・文化交流を担った人々の思想や、日本の社会・経済の状況と変化に注目する。 | 古代から近世に至る日本を取り巻く国際・文化交流史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。古代から近世にかけての重要な出来事について歴史学の立場から十分に理解し説明できる。 (知識・技能・表現)(異文化理解・多様性理解) | 古代から近世に至る、日本を取り巻く国際・文化交流史について、理解し、説明できる。重要な歴史上の出来事の経緯と背景を理解し、説明できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 日本の歴史B（近代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 日本の近代（幕末～昭和戦前・戦時）の政治・経済・国際関係史を講義する。日本の近代はグローバル化と戦争の時代であった。社会のなかで人々がどのように行動し、選択したのかを、歴史資料の読解を重視し、様々な角度から複眼的に考察する。 | 日本の近代史の重要トピックについて、その経緯・背景・因果関係を十分に理解し、説明できる。(異文化理解・多様性理解) | 日本の近代史の重要トピックについて、その経緯・背景・因果関係を十分に理解し、説明できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 中国の社会A（中華人民共和国の社会） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 中国社会または中国政治の仕組みに関する基本知識を習得した上で、中華人民共和国成立後の変動を考察し、とりわけ改革開放後における社会の変容および社会階層の分化をテーマごとに学ぶ。 | 中国社会または中国政治に関する基本知識を身に付け、改革開放後における社会の変容および社会階層の分化を理解することができる。 (異文化理解・多様性理解) | 現代中国社会または中国政治の仕組みに関する基本知識を理解する。また経済発展が変えた現代社会の諸相から中国社会が普遍的に抱える問題を最低限に説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------------|-----------------|------|-----|---|--|---|
| 中国の社会B（社会の多層性） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 社会の多層性を学際的な観点から理解し、また共感することができることを目標とし、その事例として中国社会をとりあげる。 この講義では、中国の3つの側面に光をあててみたいと思う。第1は、少数民族の住み地域である。中国には漢民族のほかに55の少数民族が暮らしている。彼らにはそれぞれ独自の文化があるが、ここでは雲南省のハニ族とナシ族をとりあげる。第2に、香港とマカオである。かつて、香港はイギリス、マカオはポルトガルの植民地であったが、現在は「一国家二制度」という形で中華人民共和国の一部となっている。自らのアイデンティティと大陸との関係にゆれる香港の現在を考え、マカオの産業として観光業とカジノについてもふれてみたい。第3に、（広い意味での中華文化圏として）台湾をとりあげる。台湾と日本には、互いに親近感をもつ人が多い。半世紀にわたる日本統治時代とそれに続く中華民国時代に、台湾は大陸とは異なる社会を作りあげてきた。「一つの中国」をめぐる国際政治についてもふれる。このほか、自地図などを利用して、中国の地理についての基礎知識も身につける。 | ・中国の地方行政区の位置と名称をすべて記憶している。 ・中国の主要都市の位置と名称をすべて記憶している。 ・多民族国家としての中国の特徴と課題を十分に理解している。 ・「一国家二制度」の特徴と課題を十分に理解している。 ・特殊な地位におかれた台湾について、十分な知識を有している。 ・中国の社会について、自分の見解を述べることができる。(異文化理解・多様性理解) | ・中国の地方行政区の位置と名称を基本的に記憶している。 ・中国の主要都市の位置と名称を基本的に記憶している。 ・多民族国家としての中国の特徴と課題を基本的に理解している。 ・「一国家二制度」の特徴と課題を基本的に理解している。 ・特殊な地位におかれた台湾について、基本的な知識を有している。 中国の社会について、自分の見解を基本的に述べることができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 中国の歴史A（古代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 前漢・司馬遷の『史記』は、一義的には歴史記録だが、司馬遷は執筆に当たり、各地で伝えられている歴史上の人物・事件ゆかりの伝承や演説の容も本書に取り入れた。それらも歴史の真実を表現している、と彼は考えたのである。その結果、本書は単なる歴史事実の羅列ではなく、人物の感情や性格がよく描写され、直接話法もしばしば現れ、「歴史小説」のような雰囲気を感じることになった。この授業ではこのような『史記』の数々の名場面の中から、秦末の項羽と劉邦を中心とする“漢楚の抗争”の部分を読み進め、あわせて伝統中国特有の価値観・倫理観・気質の特色などについて、理解を深めてゆく。 | 世界の古典のなかでも重要度の高い『史記』に触れることにより、 1. 漢文脈が今日の日本語にも重要な役割を果たしていることを実感し、その事実を自覚的に説明できるようになる。 2. 現在も今後も日本文化にとって不可欠の“漢字文化”についての知識を増やし、感性を磨くことが期待できる。 3. 司馬遷の執筆の姿勢から、歴史を理解するうえで大切なのは理論や思想ではなく、“歴史を作るのは人間である”という認識にもとづくことである、と実感し、そのことを自分のことばで説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | 世界の古典のなかでも重要度の高い『史記』に触れることにより、 1. 漢文脈が今日の日本語にも重要な役割を果たしていることを実感することができる。 2. 現在も今後も日本文化にとって不可欠の“漢字文化”について一定程度理解し、知識や感性を深めてゆくことが期待できる。 3. 司馬遷の執筆の姿勢から、歴史を理解するうえで大切なのは理論や思想ではなく、“歴史を作るのは人間である”という認識にもとづくことである、と実感することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 中国の歴史B（明清代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 社会の多層性を学際的な観点から理解し、また共感することができることを目標とし、その事例として明・清代の中国をとりあげる。 14世紀から20世紀にかけて中国を統治した明朝と清朝について講義する。漢民族の王朝である明朝と、異民族（満洲族）の王朝である清朝とを比較しながら、中国社会の特質について考えていく。北京にある広大な紫禁城（現在は故宮博物院）はいつ誰によって築かれたのか、万里の長城はどんな役割を果たしていたのか、満洲族と漢民族はどが違うのか、官僚と官官（かんがん）はどのような関係にあったのか、皇位をめぐるどのような争いが展開されたのか、などの点を考察する。個性あふれる皇帝たち、その妃たちのエピソードも交えて話していく。 | ・明代と清代の歴史について、十分に理解している。 ・明朝と清朝の共通点と相違点について、十分に理解している。 ・明代と清代の歴史について、先行研究を整理したうえで、自分の見解を述べることができる。(異文化理解・多様性理解) | ・明代と清代の歴史について、基本的に理解している。 ・明朝と清朝の共通点と相違点について、基本的に理解している。 ・明代と清代の歴史について、自分の見解を基本的に述べることができる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパの社会A（多文化社会） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国境を越えた人口移動と、多文化社会の問題が関係付けられるようになったのは、古いことではない。人口移動、とくに国際移民の研究では、1960年代、1970年代のヨーロッパにおける外国人労働者の定着や、アメリカにおける中南米やアジア諸国からの移民の流入によって、多文化社会の視点から人口移動が論じられるようになった。また一つの社会の中に多数の文化が存在することをよしとする多文化主義が登場したのも1970年代以降のことである。ヨーロッパをフィールドとするこれらの現象を取り扱った基本的な研究を取り上げ、検討しながら、社会学的な理解を深めていく。 | 多文化状況を経験しているフランス社会の統合の在り方を説明し、日本との比較から考え、関心を持つことができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 多文化状況を経験しているフランス社会の統合の在り方を最低限説明し、日本との比較から考え、関心を持つことができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパの社会B（社会空間） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ヨーロッパは、そこに住む人々の社会的営為により生産された空間、いわゆる社会空間であるとみなすことができる。この授業では、社会空間という視点に立脚したうえで、それを説明する理論として、地域論、空間論、景観論などの地理学的諸理論を採用しつつ、ヨーロッパ各地の都市や農村を説明する方法を教授する。 | 1. 地域論、空間論、景観論の専門的な用語を詳細に説明できる。 2. 社会空間に関連した様々な専門的な用語を用いて、個々の都市や農村の特徴を詳細に説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学習に積極的に取り組み、ヨーロッパの社会空間を主体的かつ積極的に理解しようとしている。(異文化理解・多様性理解) | 1. 地域論、空間論、景観論の用語を説明できる。 2. 社会空間に関連した用語を用いて、個々の都市や農村の特徴を説明できる。 3. 授業中の課題や事前・事後学習に積極的に取り組み、ヨーロッパの社会空間を理解しようとしている。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパの歴史A（前近代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この講義では、近代以前のヨーロッパの歴史を対象とする。キリスト教が広がっていった一方で、ユーラシアの他の地域のように巨大な統一帝国が形成されず、諸国がひしめき合う体制が続いたこと、そしてそのような分裂と統一の交差するなかで近世以降対外進出を進め、富を蓄積していくことになったこと、さらにこうした変化がヨーロッパ諸地域の社会のあり方に与えた影響など、近現代ヨーロッパを理解するうえでも重要な論点について考察する。 | 近代以前のヨーロッパの歴史について、その特徴を正確に理解し、具体的な事例を基に説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | 近代以前のヨーロッパの歴史について、その特徴を理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------------------------|-----------------|------|-----|---|---|--|
| ヨーロッパの歴史B（近現代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この講義では、対立と統合が繰り返すヨーロッパの歴史のなかで、とりわけ近現代に焦点を当てる。フランス革命以降の国民国家と市民社会の形成、帝国主義と階級社会、二度にわたる世界大戦と安全保障の試み、民主主義の危機、そしてヨーロッパ統合をめぐる求心力と遠心力。現在のヨーロッパを理解するために不可欠な歴史のプロセスについて取り上げ、考察する。 | 現在のヨーロッパのあり方を歴史的経緯から理解し、その政治、社会的側面について、具体的な例に基づき正確に説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) | 現在のヨーロッパのあり方を歴史的経緯から理解し、その政治、社会的側面について説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| アメリカの社会A（多文化社会） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 アメリカ社会を構成する様々な人々や集団、彼らの文化を学ぶことを通じて、アメリカ合衆国の性格や特徴を理解することを目指す。社会科学や歴史学、文化研究の方法を用いて、ジェンダーや人種、階級や貧困等の様々な側面から、アメリカ社会の多様性ととも諸集団の経験や集団間の関係、さらにはアメリカ合衆国という国家との関係を考察する。講義で扱われるトピックを通じて、政治経済から文化までアメリカ合衆国を総合的に学ぶ。 | アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じることで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。 アメリカ合衆国における社会的・文化的側面を説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) | アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じる姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限できるようになる。 アメリカ合衆国における社会的・文化的側面を最低限説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| アメリカの社会B（人の移動） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 アメリカ社会を構成する様々な人々や集団、彼らの文化を学ぶことを通じて、アメリカ合衆国の性格や特徴を理解することを目指す。社会科学や歴史学、文化研究の方法を用いて、ジェンダーや人種、階級や貧困等の様々な側面から、アメリカ社会の多様性ととも諸集団の経験や集団間の関係、さらにはアメリカ合衆国という国家との関係を考察する。講義で扱われるトピックを通じて、政治経済から文化までアメリカ合衆国を総合的に学ぶ。 | アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じることで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。 アメリカ合衆国における社会的・文化的側面を最低限説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) | アメリカ合衆国を、広く社会的、文化的側面から論じる姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限できるようになる。 アメリカ合衆国における社会的・文化的側面を最低限説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| アメリカの社会C（政治と社会） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 日本の政治や社会との比較も取り入れながら、現在のアメリカの政治や社会を考察するための基礎的な知識や枠組みを身につける。また、民主主義の制度がどのようなもので、民主主義が機能するためには政治や社会がどのようなものである必要があるかに関する理解も深める。 | 現在のアメリカの政治や社会、および民主主義の諸制度について、基礎的な知識を身につけ、理解できる。 (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) | 現在のアメリカの政治や社会、および民主主義の諸制度について、最低限の基礎的な知識を身につけ、考察することができる。 (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解) |
| アメリカの歴史A（近代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 植民地建設から19世紀後半までのアメリカ合衆国の歴史を学ぶ。現在の日本社会にも大きく影響するアメリカ合衆国の政治や文化、経済は、どのような変遷を経て今日の状況に至ったのか、歴史的に思考することを本科目での目的とする。そして、人々がどのように生きたのかを学ぶことで、歴史に対する想像力を養う。 | アメリカ合衆国を、歴史的側面から学ぶことで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。 基本的なアメリカ合衆国史を説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) | アメリカ合衆国を、歴史的側面から学ぶ姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限できるようになる。 基本的なアメリカ合衆国史を最低限説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| アメリカの歴史B（現代） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 20世紀転換点から今日までのアメリカ合衆国の歴史を学ぶ。現在の日本社会にも大きく影響するアメリカ合衆国の政治や文化、経済は、どのような変遷を経て今日の状況に至ったのか、歴史的に思考することを本科目での目的とする。そして、人々がどのように生きたのかを学ぶことで、歴史に対する想像力を養う。 | アメリカ合衆国を、歴史的側面から学ぶことで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。 基本的なアメリカ合衆国史を説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) | アメリカ合衆国を、歴史的側面から学ぶ姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限できるようになる。 基本的なアメリカ合衆国史を最低限説明することができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| Foundations of Japanese Studies | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、英語で日本研究の学際的な領域について検討し、様々な視点から日本の概念と理念を探究する。日本研究における中心的トピックの検討によって、社会と文化のさまざまな側面のつながりを明らかにする。 | 1. 日本の社会を英語で十分に理解し、説明することができる。 2. 日本研究における中心的トピックについて英語で要約し、詳細に分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 1. 日本の社会を英語で理解し、説明することができる。 2. 日本研究における中心的トピックについて、英語で基本的なレベルで要約し、分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| Topics in Japanese Studies | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、英語で日本研究における主要な、また現在注目を集めるようになっているトピックについて考察する。その際、さまざまな視点から日本の多面的性質の理解についての新たな方法を検討する。学際的な探究を通して、日本についてのトピックを分析し、一般に受け入れられた観念を乗り越えることを目指す。 | 1. 日本の多面的な性質を英語で十分に理解し、説明することができる。 2. 日本についてのトピックをさまざまな視点から英語で要約し、具体的に分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 1. 日本の多面的な性質を英語で基本的なレベルで理解し、説明することができる。 2. 日本についてのトピックを限られた視点から英語で要約し、分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| Foundations of American Studies | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、英語でアメリカ研究の学際的な領域について検討し、様々な視点からアメリカ合衆国の概念と理念を考察する。アメリカ研究における中心的トピックの検討によって、社会と文化の様々な側面のつながりを明らかにする。 | 1. アメリカ社会を英語で十分に理解し、説明することができる。 2. アメリカ研究におけるトピックを英語で要約し、具体的に分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 1. アメリカ社会を英語で基本的なレベルで理解し、説明することができる。 2. アメリカ研究におけるトピックを英語で基本的なレベルで要約し、分析することができる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| Foundations of British Studies | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、1945年以降のイギリス社会と、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの文化的多様性についての理解を深めるために役立ちます。英語による授業なので、イギリスに関する自分の考えを英語でまとめ、表現する練習もする。 | 英国についての自分の考えを、文章や口頭で明確に英語で説明できる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 英国についての自分の考えを、文章や口頭で基礎的なレベルの英語で説明できる。 (異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------|-----------------|------|-----|---|--|--|
| コミュニケーション論A（日本） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 アジア諸国において、円滑なコミュニケーション関係を築いていくために、どのようなことが重要であるか、日本と諸外国の文化の比較しながら考える。円滑なコミュニケーションの方法として、言語に視点を置くだけでなく、表情・しぐさ・化粧や対人距離などを含む、非言語的要素との相補作用に着目し、理解を深める。 | コミュニケーションを成立させるために必要なさまざまな知見と配慮について理解し、説明することができる。 自己と他者との違いを自覚したうえで、より良いコミュニケーションの実現に主体的に取り組むことができる。（異文化理解・多様性理解） | コミュニケーションを成立させるために必要な基本的な知見と配慮について理解し、説明することができる。 自己と他者との違いを自覚したうえで、より良いコミュニケーションの実現を目指すことができる。（異文化理解・多様性理解） |
| コミュニケーション論B（中国） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 中国に行った日本人はよく中国或いは中国人を自分たちと同じ価値観で物事を判断する傾向がある。しかし、漢字を共に使用する日本人と中国人では、文化・発想・行動様式等においては大きな違いがある。この授業は中国・日本を座標軸として、「言語コミュニケーション」「非言語コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」という三つのテーマに分けて比較的な視点で中国語と日本語または中国文化と日本文化の相違について学ぶ。 | 日中の言語的または文化的な違いや特徴を習得し、漢字圏におけるコミュニケーションに関する知見を深め、社会に出て活躍する際、アジア諸国の人々との交流に役立つ人材としてのスキルが向上できるようにする。（異文化理解・多様性理解） | 中国語と日本語または中国文化と日本文化の相違や特徴を最低限説明することができる。（異文化理解・多様性理解） |
| コミュニケーション論C（ヨーロッパ） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ヨーロッパ諸言語（イギリス英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語など）とその背景となる文化との関わりについてそれぞれの特徴を理解する。さらに各地における言語政策、多言語主義教育、言語計画、言語帝国主義、言語拡散政策、言語純化主義、言語紛争などについて学習する。そららを通して、ヨーロッパ言語の多様性ととも政治性についても考察する。 | 地域を単位としてヨーロッパの歴史と現在を考察することができる。 ヨーロッパをより重層的に理解するとともに、地域的多様性がヨーロッパというコミュニケーション空間においてどのような役割をはたしているかについて理解を深めることができる。（異文化理解・多様性理解） | ヨーロッパの歴史と現在を考察することができる。地域的多様性がヨーロッパというコミュニケーション空間においてどのような役割をはたしているかについて理解を深めることができる。（異文化理解・多様性理解） |
| コミュニケーション論D（アメリカ） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 アメリカ英語をより効果的に使えるようになるためにはアメリカ英語の社会的、文化的背景を理解することが必須である。本講ではアメリカの文化的、社会的要素と言語の多様性との関係、地域方言、人種方言、黒人英語、男女差、敬語、比喩、擬声語、擬態語、広告英語、二言語教育、公用語化運動などについて理解する。 | アメリカ英語の諸特徴を学ぶことで、その社会的、文化的背景をよりよく理解することができるようになる。（異文化理解・多様性理解） | アメリカ英語の諸特徴を最低限理解することができる。（異文化理解・多様性理解） |
| 英語学概論 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 英語という言語がどのように生まれ発展してきたか？ 英語にはどんな文法的特徴があるのか？ 実際の会話では、どのように使用されているか？などを総合的・体系的に学習する。英語の歴史については、古英語、中英語、近代英語のそれぞれの特徴を、また文法については音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、さらに会話における使用については、語用論、応用言語学、社会言語学について理解する。語用論については発話行為や談話分析などを、また応用言語学についてはことばと脳の関係や第二言語習得なども理解する。（ | 1. 日々のコミュニケーションを学問という窓を通して分析的に見つめ直すことができる。英語のコミュニケーションの諸相を概観しながら、コミュニケーションの背後にあるメカニズムを体系的に考えることができるようになる。 2. 全14回の講義を通して自分自身の英語学習を振り返り、より効果的な学習ができるようヒントを少しでも多く得ることができるようになる。（異文化理解・多様性理解・言語運用能力） | 1. 日々のコミュニケーションについて見つめ直すことができる。英語のコミュニケーションの諸相を概観しながら、コミュニケーションの背後にあるメカニズムを考えることができるようになる。 2. 全14回の講義を通して、英語学習についての何等かのヒントを得ることができるようになる。（異文化理解・多様性理解・言語運用能力） |
| 社会言語学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 社会言語学は、ある社会における言語特徴を調べるために、言語の多様性・その機能など人間言語の本質をより明らかにしようとする言語研究の分野である。この授業では社会との関連において言語に関する基本的な概念や考え方について理解できることを目標とする。人間の意思伝達において言語と社会文化的な諸要素との相互影響について学習する。取り上げるテーマは、言語の変異に焦点を当てて、人間の言語能力が社会でどのように表現されているか、その複雑な関係について具体的に理解する。 | 社会と言語の関係について、自身の身近な例をもとに理解することができる。日本語教師を目指す者は、関連する理論や用語の概念を理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解） | 社会と言語の関係について、最低限、理解することができる。日本語教師を目指す者は、関連する理論や用語の概念をおおむね理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解） |
| 対照言語学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 主に英語と日本語の間に見られる相違点と共通点について考察する。特に単語（語句）の意味や文の構造に関わる課題を取り扱い、英語で書かれた文章とその日本語訳や、日本語で書かれた文章の英訳を資料にし、それから発見できる対応関係のパターンを考える。日英の表現法の相違について考察し、それらの相違点について、それぞれの言語構造に基づいたものなのか、文化的背景を反映しているものなのかを検討し、言語構造の相違点を明らかにするだけでなく、言語表現の背後に潜む思考様式や論理、価値観などについても、包括的に比較検討する。 | 言語の現象を把握し、客観的に考えるための体系的な知識を身につけることができる。日本語と英語のさまざまな違いを発見し、理解することができるようになる。（異文化理解・多様性理解・言語運用能力） | 言語の現象を把握し、客観的に考えるための基礎的な知識を身につけることができる。日本語と英語の違いを理解することができる。（異文化理解・多様性理解・言語運用能力） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------------|-----------------|------|-----|--|--|---|
| 第2言語習得論 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、第二言語を学ぶのか、第二言語習得の代表的な理論を理解する。第一言語（母語）ではない言語（第二言語、外国語）を私たち（学習者）がどのような過程を経て習得（学習）するのかを、母語と第二言語の関係、学習者の年齢、認知力、言語適正などが言語習得に及ぼす影響、学習者の環境（目標言語が使用される環境下にいるかどうか）が言語習得に及ぼす影響などの観点から考察する。また、第二言語習得論の基礎的な知識をもとにして、実際の言語習得のプロセスやそれにかかわる具体的事象を分析する。 | 1. 学問の窓を通して〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉メカニズムを体系的に理解することができる。様々な先行研究に触れながら、最終的には〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉スキルを身につけることができる。（技術）理論に裏付けされた英語学習・指導は着実な成果を上げることが体感できる。（異文化理解・多様性理解） | 1. 学問の窓を通して〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉基本的なメカニズムを理解することができる。様々な先行研究に触れながら、最終的には〈ことばを学ぶ〉〈ことばを教える〉スキルを身につけることができる。（技術）理論に裏付けされた英語学習・指導は着実な成果を上げることが体感できる。（異文化理解・多様性理解） |
| 現代社会と思想・宗教A（哲学） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、哲学の包括的内容を取り上げる。我々は日々さまざまな問題を抱え、どのように生きてゆかという問いに直面している。この問いに向かい合うとき、過去の人々が人間というものをもどのようにとらえ、どのように社会とかわかって来たかを知り、それに学ぶことは重要な手続きであると言える。そうした考えに基づき、人間を追求するうえで必須の学問である哲学について、私たちの日常生活との関わりを意識しながら、その中核的な内容を取り上げ解説する。 | 1. 地域的な思想・宗教の特質についてその概略を正確に理解し、説明することができる。 2. 思想・宗教の接触がもつ意味について、正確に理解し、説明することができる。 3. 現代社会、とくに東アジアにおける思想・宗教の課題を自己の関心として正確に理解し、説明することができる。（異文化理解・多様性理解） | 1. 地域的な思想・宗教の特質についてその概略を理解し、一定程度説明することができる。 2. 思想・宗教の接触がもつ意味について、一定程度理解し、説明することができる。 3. 現代社会、とくに東アジアにおける思想・宗教の課題を自己の関心として理解し、一定程度説明することができる。（異文化理解・多様性理解） |
| 現代社会と思想・宗教B（倫理学） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、倫理学の包括的内容を取り上げる。倫理学とは、人間集団における相互の関係に影響する規範や道徳について考える哲学の一分野である。倫理学の基本的な考え方や主要な理論、さらには応用倫理学などを教授しつつ、現代社会において私たちが直面する倫理問題について考察を加えながら、倫理学の中核となる知識について解説する。 | 1. 主要宗教の基本事項とそこにおける人間の思考の位置づけを正確に理解する。 2. 1. の理解をふまえて、宗教と人間の思考の関係について、自らの考えを表現することができる。（異文化理解・多様性理解） | 主要宗教の基本事項とそこにおける人間の思考の位置づけを理解することができる。（異文化理解・多様性理解） |
| 日本の文学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 日本人が「国際」的になるには、日本のことをよく理解していなければならない。日本の美点や特質を知らなければ、外国の美点も特質も知り得ない。あるいは誤解したままのイメージを持ち続けてしまう。日本の美点や特質を如実に表すものの一つが「文学」である。「日本の文学」を知ることで国際社会に通じる道が開ける。 | 日本の文学のリアリティや表現力を理解し、その美点や特質を認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。 適切な分析方法を使って日本の文学の特質についてのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） | 日本の文学のリアリティや表現力を理解し、その美点や特質をある程度認識できる。 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。 分析方法を使って日本文学の特質についての、基本レベルのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解） |
| 中国の文学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 詩が作られた社会背景・政治状況を理解したうえで、その折々の人々の感情（希望や悲しみ、怒りなど）を想像し、追体験する。そういう形で、詩の内容を少しでも生きたものとして捉えることを目的とする。神話時代から、戦国時代の最初の歌謡集、後漢から南朝時代の五言詩を経て、唐代の全盛期に至る中国の伝統詩（いわゆる漢詩）の名作を、時代の特色と合わせて鑑賞し、内容理解を深める。 | 1. 中国の詩を古代から中世にかけて概観したうえで、ほかの国と異なる中国の詩独自の奥深さや魅力を理解し、これを或る程度説明することができる 2. 漢字文化について、関心を持ち、関連の文献を探ることができる。（異文化理解・多様性理解） | 1. 中国の詩を古代から中世にかけて概観したうえで、ほかの国と異なる中国の詩独自の奥深さや魅力を理解している 2. 漢字文化について、関心を持つことができる（異文化理解・多様性理解） |
| 英語圏の文学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 本講義では、ヨーロッパの英語圏、すなわちイギリスとアイルランドの文学を概観する。両国とも、自らが世界に誇ることができる文化として、まず「文学」を挙げると言われる。その文学の豊かさ、深さ、面白さを、一端でも実感できるように、実際の作品からの引用を多く使い、同時に文学史的要素も組み込んで、作品と時代思潮や社会背景との関係も解説する。また、ジャンルの観点からも、詩、小説、戯曲、随筆等、可能な限り多岐にわたるものとする。 | イギリスとアイルランドの文学を対象とし、その多様性一豊かさ、深さ、面白さを実感し、それを正確に言語化することができる。作品と時代思潮や社会背景との関係を深く理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解） | イギリスとアイルランドの文学を対象とし、その多様性一豊かさ、深さ、面白さを実感し、言語化することができる。作品と時代思潮や社会背景との関係について最低限の知識を得ることができるようになる。（異文化理解・多様性理解） |
| ヨーロッパ大陸の文学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ヨーロッパ文化の中で、英語圏を除く他の言語圏（ドイツ語圏、あるいはフランス語・イタリア語・スペイン語などのラテン語系の言語圏）の文学を扱う。伝統ある文学の世界に視界が開けるように、翻訳や映像も併用しながら講義を進める。大陸の諸言語圏の文学作品の基本的な特徴を理解させることを主眼とするが、個々の文学作品を通じて時代思想や社会背景についても講義し、ヨーロッパ文化への理解を深める。 | フランス語圏の文学を通して、ヨーロッパの歴史、社会、思想を知り、説明することができるようになる。（異文化理解・多様性理解） | フランス語圏の文学を通して、ヨーロッパの歴史、社会、思想を知り、最低限説明することができるようになる。（異文化理解・多様性理解） |
| アメリカの文学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 17世紀の植民地時代から現在にいたるアメリカ文学を通して、アメリカ社会や文化の流れや全体像を明らかにする。各時代を代表するテクニクを歴史的、社会的文脈に即して読み解きながら、同時代の関連芸術や大衆文化との関連についても検討し、アメリカの歴史や思想など背景となる基礎的な知識を深める。また、アフリカ系、アジア系、ヒスパニック系など様々なマイノリティ作家の作品も取り上げることで、アメリカ文学の多様性や現代性を探る。 | アメリカ文学を通して、各テクニクに映し出された時代や社会の変化を探り、アメリカ社会に対する理解を深めることができるようになる。（異文化理解・多様性理解） | アメリカ文学を通して、各テクニクに映し出された時代や社会の変化を探り、アメリカ社会に対する理解を最低限得ることができるようになる。（異文化理解・多様性理解） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------------------------------|-----------------|------|-----|---|---|---|
| 映像文化論 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 20世紀が始まるころに誕生した映画は、いまやもっとも重要な芸術形式のひとつにまで成長した。その「語り」の力は文学や美術と明らかに肩をならべるものになっているといつてよいだろう。しかし映画は単に「表現」に注目するだけで理解できるわけではない。この科目では、(1)映画の表現技法（映画の言語）は人間の認識や他の芸術にどのような影響を与えたか、(2)映画産業は社会にどのような影響を与えたか、(3)映画とそれぞれの地域文化との関係はどのようなものか、以上の点を踏まえながら映画の社会史・文化史を講義する。 | 映像文化の発信者である制作者による講義を通して、制作の現場から撮影すること、映画制作の意味、映像表現の可能性等について考え、現代社会における映像文化の意義を理解する。受け身ではなく、作り手の側に立ちってみることで、自らも積極的に映像文化を研究に取り入れて考えることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 映像文化の発信者である制作者による講義を通して、制作の現場から撮影すること、映画制作の意味、映像表現の可能性等について考え、現代社会における映像文化の意義を理解する。受け身ではなく、作り手の側に立ちってみることで、自らも積極的に映像文化を研究に取り入れて考えることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| Diversity, Inclusion, and Leadership | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、多様性と包摂のためのリーダーシップについて英語で考察する。リーダーシップにおける多様性と包摂の中心的概念について検討することにより、多様性の社会における包摂的なリーダーに必要な知識と技能を英語で身に付けることを目指す。 | 1. 多様性と包摂のために必要なリーダーシップの技能を十分に身に付けている。 2. 多様性と包摂についての十分な理解を英語で示すことができる。(言語運用能力・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. 多様性と包摂のために必要なリーダーシップの基本的な技能を身に付けている。 2. 多様性と包摂についての基本的な理解を英語で示すことができる。(言語運用能力・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| Comparative Culture | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、文化の意味と文化が研究され、描かれる方法について英語で考察する。その際、比較の文脈における文化の理解のための方法や戦略についての導入を行う。 | 1. 文化現象について英語で十分に理解し、説明することができる。 2. 比較の観点から文化を分析するための方法や戦略を英語で十分に用いることができる。(異文化理解・言語運用能力) | 1. 文化現象について英語で基本的なレベルで理解し、説明することができる。 2. 比較の視点から文化を分析するための方法や戦略を英語で基本的なレベルにおいて用いることができる。(異文化理解・言語運用能力) |
| Foundations of Business Communication | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な、異文化理解の力を英語で身に付ける。異文化理解を踏まえた英語コミュニケーション力を身に付ける。 | 1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で十分な説明ができる。 2. 異文化理解を踏まえた、十分な英語コミュニケーション力を示せる。(技術)(異文化理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解) | 1. ビジネスの世界において活躍できるグローバル人材に必要な異文化理解について、英語で最低限の説明ができる。 2. 異文化理解を踏まえた、最低限の英語コミュニケーション力を示せる。(技術)(異文化理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解) |
| Topics in Business Communication | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、ビジネスリーダーが効果的なコミュニケーションスキルと戦略を用いて、どのようにビジネスの成長と持続可能性を促進してきたかを考察する。 | 英語でビジネスリーダーが用いる様々なコミュニケーション戦略を十分に理解し、説明できる 2.英語でクラスでの発表を通じて、英語コミュニケーションスキルの効果的な活用を十分に示すことができる。(異文化理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解) | 英語で基本的にビジネスリーダーが用いる様々なコミュニケーション戦略を理解し、説明できる 2.英語でクラスでの発表を通じて、英語コミュニケーションスキルの基本的な活用を十分に示すことができる。(異文化理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解) |
| International Exchange | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は諸国間における国際交流について英語で考察する。その際、国際交流とその構造のさまざまな類型について学びつつ、文化、歴史、哲学、経済力といったさまざまな文脈的な要因が国際交流をいかに形成するののかについて英語で検討する。 | 1. 国際交流に関する概念について英語できちんと説明し、応用することができる。 2. 文脈的要因がいかに国際交流を形成しているのかについて英語で要約し、具体的に分析することができる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 1. 国際交流に関する概念について基本的なレベルにおいて英語で説明し、応用することができる。 2. 文脈的要因がいかに国際交流を形成しているのかについて基本的なレベルにおいて英語で要約し、分析することができる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| ヨーロッパの国際関係A（外交史） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際関係史のなかでも、古典外交を成立させ、その後の国際社会の発展の基礎を作った意味で重要なヨーロッパ外交史の基礎知識を身に付ける。基本的にウィーン会議以降の時代を対象とし、史料研究に基づく歴史学の成果を用いながら分析する。特に、ヨーロッパ外交上の主要事件について、各国の対応とヨーロッパ全体の構造変化を同時に論じる能力を習得する。 | ヨーロッパ外交史の主要事件を歴史学の研究成果に従って、各国の対応とヨーロッパ全体の構造変化に触れつつ、総合的に説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | ヨーロッパ外交史の主要事件を歴史学の研究成果に従って基本的な事項を説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| ヨーロッパの国際関係B（欧州統合論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 欧州の国際的地域法・行政共同体であり、「前例なき政体」と呼ばれるEU（欧州連合）の制度と政策決定過程の基礎知識を習得し、EUの法規範形成、各分野の域内政策、グローバル・アクター、シヴィリアン・パワーとしての国際的影響力について考察する。また、EUとともに欧州および近隣地域の国際秩序形成に貢献しているNATO（北大西洋条約機構）、COE（欧州評議会）とEUの関係についても考察する。 | EU（欧州連合）の制度と政策決定過程について、国際的地域法・行政共同体としての特性を指摘しつつ、総合的に説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | EU（欧州連合）の制度と政策決定過程について、基本的な事項を説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| アメリカと世界A（総論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 20世紀のアメリカと国際社会との関わりを、アメリカ的な価値観や国際関係の枠組みの追求といった観点から概観するとともに、特に第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する理解を深める。 | 第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関するさまざまな事実について理解できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 第二次世界大戦から1970年代にかけてのアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する基礎的な事実について最低限理解できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| アメリカと世界B（各論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 「アメリカと世界A」で学んだ第二次世界大戦以降のアメリカの対外関係の特徴を踏まえ、1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する理解を深める。 | 1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関するさまざまな事実について理解できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 1970年代から「冷戦」後のアメリカの対外政策と世界の他地域との政治経済的、軍事的な関係に関する基礎的な事実について最低限理解できる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| 国際法A（総論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際社会は得てして、パワーポリティクス、力によって動いていると考えられがちである。しかし、それだけで国際社会は動いていない現象を見ることがある。大国であれ、中小国であれ、国際法に依拠した行動が求められる。本講義では国家の行動の基準となる国際法を学ぶ講義である。特に、国際法の総論部分、すなわち、国際法の存在形態、国際法の主体である国家に焦点をあて、その形成、国家機関の国際法上の機能について学習する。 | 生来的国際法主体である国家の形成と変化に関する国際法規範を理解し、事例に適用できる。国家機関に関する国際法規範を理解し、国家管轄権の適用と限界について具体的事例を含め、説明できる。国際法規範の種類と成立について説明し、条約法条約の規範について解釈・適用できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 生来的国際法主体である国家の形成と変化について基本的な国際法規範を説明できる。国家機関に関する基本的な国際法規範を説明できる。国際法規範の種類と形成要件について基本的な事項を列挙できる。条約法条約の基本的条項を選択できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------------|-----------------|------|-----|---|--|---|
| 国際法B（各論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際法の各論部分について、学習する。分野としては、陸地の帰属、国際化地域、宇宙空間などのエリアに関する国際法規を理解する。また海洋に関する国際法規について知る。国際経済法や国際環境法の基礎的事項を学習する。国際法Aの学修を前提としていない。 | 国家領域の取得に関する国際法原則について、歴史的変遷を踏まえて総合的に説明することができる。国際化地域、国際公域に適用される国際社会共通の利益について、国際社会の歴史と関連付けて説明することができる。海洋法分野については、それぞれの海域についての沿岸国の権利義務について、国連海洋法条約を解釈適用して、具体的事例についても説明することができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 国家領域の取得についての国際法原則の基本事項を把握する。国際化地域および国際公域の具立的事例を列挙でき、その基本的国際法規を述べられる。海洋法分野について海域の具体的状況について分類することができる。そこに適用される国連海洋法条約の条文が選択できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 国際組織論 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際連合が成立してから半世紀以上が経過し、国際組織の活動が報道されることは違和感はないに違いない。国際組織の活動は各国のそれらと同様に国際社会にとり、重要な国際実行となる。すなわち、国際組織の活動は現代社会の問題を考える上で既に無くてはならない存在である。本講義は、国際社会の重要な行為主体となった国際組織について知見を深めることを目的とする。国際組織の成立史、その機能、法的な基盤、そして、直面する問題点などについて学習する。 | 国際組織の成立経緯について、国際社会の組織化を踏まえて総合的・網羅的に理解できる。国連の主要な活動(国際の平和と安全の維持、経済社会分野での国際協力等) について、国連憲章を解釈・適用することで説明することができる。地域的国際組織の形成と発展について国連と比較しつつ、その相違について述べることができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 国際組織の成立経緯について基本的な事項を理解する。国連の主要な活動(国際の平和と安全の維持、経済社会分野での国際協力等) について、基礎的な国連憲章の条文を理解する。地域的国際組織の形成と発展について概要を把握する。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 地域経済論 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、「グローバル経済論A・B」で学ぶ世界経済全体のトレンドを踏まえつつ、アジア太平洋やヨーロッパのように国境を越えた地域的な枠組のなかで進行する経済事情について考察する。欧州連合（EU）やRSEP（東アジア地域包括的経済連携）などの地域機構や公式の枠組だけでなく、国際分業やサプライ・チェーンなどに関わる問題も考察する。 | それぞれの地域の経済事情について、その重要な課題を、グローバルルールや組織と関係づけながら、説明することができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | それぞれの地域の経済事情について、その重要な課題を挙げるができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| ミクロ経済学A（完全競争の理論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 経済学には大きく分けてマクロ経済学とミクロ経済学という理論体系がある。ミクロ経済学では、市場経済における経済主体(家計、企業、政府)の合理的な意思決定のメカニズムを理解し、そのような経済行動をそれぞれとる経済主体同士が市場において相互依存的な関わりを持つことで達成されるさまざまな資源配分とその帰結について学習する。本科目「ミクロ経済学A」では、ミクロ経済学全体の「前半」として、ミクロ経済学の主要な理論体系となった、完全競争市場下の市場経済分析を主に取り扱う。具体的には、市場分析（需要・供給・均衡）の基礎、消費者理論（効用最大化とその応用）、生産者理論（利潤最大化問題とその応用）、市場の効率性（競争均衡の性質や余剰分析、部分均衡分析、一般均衡分析）について学ぶ。ミクロ経済学は、「ミクロ経済学A」と「ミクロ経済学B」の2科目を共に学ぶことでその学習が完了するので、この分野に関心のある学生は「ミクロ経済学A」と「ミクロ経済学B」セットでの履修を推奨する。 | ミクロ経済学における基礎的概念を十分に理解し、経済分析を図（グラフ）を用いて的確に進めることができる。完全競争市場の仮定が成り立つ市場経済における経済主体の経済行動について、ミクロ経済理論を応用して発展的に考察することができる。自らの力で現実経済の問題を経済学的に深く分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | ミクロ経済学における基礎的概念を十分に理解し、経済分析を図（グラフ）を用いて進めることができる。完全競争市場の仮定が成り立つ市場経済における経済主体の経済行動について、ミクロ経済理論を応用して考察することができる。自らの力で現実経済の問題を経済学的に分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| ミクロ経済学B（不完全競争の理論） | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 経済学には大きく分けてマクロ経済学とミクロ経済学という理論体系がある。ミクロ経済学では、市場経済における経済主体(家計、企業、政府)の合理的な意思決定のメカニズムを理解し、そのような経済行動をそれぞれとる経済主体同士が市場において相互依存的な関わりを持つことで達成されるさまざまな資源配分とその帰結について学習する。本科目「ミクロ経済学B」では、「ミクロ経済学A」での学修内容をもとに、ミクロ経済学の後半として、完全競争市場の仮定が成り立たない場合、すなわち「市場の失敗」に関する諸理論について主に学ぶことになる。具体的には、独占・複占・寡占、情報の非対称性、外部性、公共財、経済政策と政府の役割などである。また、少数の経済主体の仮定を積極的に取り入れ、戦略的な相互依存関係にある経済主体を分析する際に有効なゲーム論などの理論的ツールも取り扱う。ミクロ経済学は、「ミクロ経済学A」と「ミクロ経済学B」の2科目を共に学ぶことでその学習が完了するので、この分野に関心のある学生は「ミクロ経済学A」と「ミクロ経済学B」セットでの履修を推奨する。 | ミクロ経済学における基礎的概念を十分に理解し、経済分析を図（グラフ）を用いて的確に進めることができる。ミクロ経済学Aの知識をもとに、完全競争市場の仮定が成立しない場合の「市場の失敗」に関する諸理論と政策的含意について、ミクロ経済理論を応用して発展的に考察することができる。自らの力で現実経済の問題を経済学的に深く分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | ミクロ経済学における基礎的概念を理解し、経済分析を図（グラフ）を用いて進めることができる。ミクロ経済学Aの知識をもとに、完全競争市場の仮定が成立しない場合の「市場の失敗」に関する諸理論と政策的含意について、ミクロ経済理論を応用して考察することができる。自らの力で現実経済の問題を経済学的に分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| マクロ経済学 | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 経済学には大きく分けてマクロ経済学とミクロ経済学という理論体系がある。本科目では、一国の経済や世界経済がどのように動いているのか、マクロ経済学的な考え方で理解し、考察できるようになることを目標とする。国レベルの経済事象を取り上げ、その背景にあるマクロ経済理論を学ぶ。具体的には、国内総生産（GDP）、消費・投資、貨幣の需給、財政政策と金融政策、経済成長理論について学ぶ。財政、労働市場、物価変動、景気循環などについては、マクロ経済データも活用しながら、経済問題をマクロ経済学的に分析する力を身につける。 | マクロ経済学に関する用語や図（グラフ）を理解して的確に説明することができる。マクロ経済理論を応用して、景気動向（GDP、物価、失業など）や金融・財政政策の有効性などについて発展的に考察することが出来る。自らの力で現実経済の問題を経済学的に深く分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | マクロ経済学に関する用語や図（グラフ）を理解することができる。マクロ経済理論を応用して、景気動向（GDP、物価、失業など）や金融・財政政策の有効性などについて考察することが出来る。自らの力で現実経済の問題を経済学的に分析できるようになる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------------------------|-------------|------|-----|---|--|--|
| 統計データ分析手法 | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 ビッグデータという言葉がメディア等でよく聞かれるようになり、実社会でもデータを適切に活用する力が求められている。経済学は、データを活用し、さまざまな経済モデルの予測や特定の政策効果の測定などを行う学問であり、理論と現実の反復を通じた「実証科学」としての性格も高まっている。本科目では、経済学のみにとどまらず、他の学問分野でも広く活用されているデータ分析の基礎を学び、データを正しく読み解く力、データを用いて問題を深く考える力を身につけることを目標とする。具体的には、データの整理、統計分析から回帰分析まで、基礎的な計量分析の手法を学ぶ。 | 基礎的なデータ分析の手法を理解し、データを適切な方法を用いて読み解き、正しく説明することができる。 基礎的な計量分析の手法を活用し、問題を発展的に考察することが出来る。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 基礎的なデータ分析の手法を理解し、データを適切な方法を用いて読み解くことができる。 基礎的な計量分析の手法を活用し、問題を考察することが出来る。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際協力論 | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際協力論の究極的な目標は、この世界を貧困から救い、剥奪や紛争やの不安心した尊厳ある生活を途上国の人びとも先進国の人びとも享受できる世界を目指す政策や実践を研究することである。これまでの国際協力の結果、途上国の貧困問題は解決したのであるか？「貧しさ」でイメージされる（時には「ステレオタイプ」「誤解」される）開発途上国の実像について、本科目では、これまでの国際協力・国際開発の進展と限界について、データや実証研究に基づく実態理解を深めることを目指す。本科目は、国際協力・国際公共政策科目群の学習の土台となる。履修学生が開発途上国の貧困問題や開発問題に向き合う国際協力を理論的・実証的に理解する基礎的視座を獲得することを目的とする。 | 貧困、開発、経済発展、格差・不平等、持続可能性などの開発途上国が抱える様々な問題や、それらに対する国際社会の協力・対応について理解できるようになる。 途上国への国際協力課題について何をすべきか考えられるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 貧困、開発、経済発展、格差・不平等、持続可能性などの開発途上国が抱える様々な問題や、それらに対する国際社会の協力・対応についてある程度理解できるようになる。 途上国への国際協力課題について何をすべきかある程度考えられるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際協力とNPO | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 数のうえでも活動の範囲・質のうえでも近年めざましい発展をとげているNPO・NGO（非政府組織）や個人による国際協力、企業による国際協力について、その重要性和問題点や限界について理解を深めるとともに、個人として国際社会にどのような関わりを持つことができるかも考察する。様々なケーススタディからNPO・NGOによる国際協力の成功要因を抽出するなどを通して、国際協力事業の実践活動にも資することを目指す。 | ・世界には様々な人々が生きている。その状況を多角的に理解し、国際協力における、非営利組織（NPO）・非政府組織（NGO）の活動の特徴や役割を十分に理解することができるようになる。 ・市民による国際協力について自ら問題意識を持って考えることができるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | ・世界には様々な人々が生きている。その状況を多角的に理解し、国際協力における、非営利組織（NPO）・非政府組織（NGO）の活動の特徴や役割の基本を理解することができるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 社会開発論 | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際開発・国際協力における経済開発の重要性は現代でもなお高まりつつある。しかし同時に、戦後から現在にいたる開発理論・開発思想の変遷のもとで、経済開発政策だけでなく社会セクターと経済発展との関連に関する研究や概念の抬頭により、国際開発の射程は経済開発を補完する社会開発を重視する総合的な開発観へと拡大してきた。本講義では、経済開発が主流を占めていた時代から、やがて人間開発や持続可能な開発を含む広義の社会開発が唱えられるようになってきた理論史・政策史を振り返りつつ、社会開発の具体的な重要セクターを取り上げてこれを講義する。これにより学生が国際開発の総合性と広がり学習し、社会開発セクターの諸課題を理解し説明できる力を得ることを目指す。 | 社会開発問題を深く理解できるようになる 市場的思考と非市場的思考との往還を深く意識して開発途上国の諸問題を考察することができるようになる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 社会開発問題を理解できるようになる 市場的思考と非市場的思考との往還を意識して開発途上国の諸問題をある程度考察することができるようになる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 政治学 | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 国際社会が直面する時事的な政治課題を政治学の理論を用いて分析する方法を習得する。具体的なテーマは、定期的にタイムリーなものを選定することとなるが、想定されるものの例は次のとおりである。平和・紛争研究、平和構築、開発途上国の民主化、家族やジェンダーをめぐる政治、経済のグローバル化をめぐる政治、環境と政治、情報技術と政治など。実務の第一線で活躍する専門家などの外部講師を活用することも視野に入れる。 | 政治学の理論や分析手法を正確に理解し、現在の国際社会が直面する諸問題を、総合的に説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 政治学の理論や分析手法の基本を理解し、現在の国際社会が直面する諸問題について基礎的な事項を説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 平和学 | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 平和学は、国家間の紛争の原因、予防や拡大防止の方法、平和維持の条件等について科学的に研究する、第2次世界大戦後に発達した学問分野である。この科目では、平和の基礎概念と平和学の基礎理論を理解し、紛争解決、平和構築など応用分野へと進むために必要な知識を習得する。 | 平和の基礎概念と平和学の基礎理論を、この分野の専門用語を正確に用いながら、総合的に説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 平和の基礎概念と平和学の基礎理論の基本的な事項について説明できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| Foundations of Global Issues | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、国際的な経済、ビジネス、政治問題の相互関係を深く理解することを目的としている。 | 英語で国際的な経済・ビジネス・政治問題の相互関係について十分な知識を持ち、これらが日本を含む世界各国にどのような影響を与えるかを効果的に分析することができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 英語で国際的な経済・ビジネス・政治問題の相互関係について基本的な知識を示し、これらの問題が日本を含む世界各国にどのような影響を及ぼすかについて最低限の分析ができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| Topics in Global Issues | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、ビジネス・マネジメントと起業家精神を習得することを目的としている。 | 英語で主要なマネジメントスキルや起業家精神について十分な知識を持つ。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 英語で経営や起業に関する基本的な知識を持つ。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| Sustainable Development | 国際学部 専門基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目では、持続可能な開発に関連する主要な理論や概念を検討することを目的としている。 | 英語で持続可能な開発の中核となる概念を十分に理解し、説明することができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 英語で持続可能な開発の中核となる概念を基本的に理解し、説明することができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------------------------------|-----------------|------|-----|--|---|---|
| Global Leadership | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 この科目は、グローバルな環境におけるリーダーシップについて英語で考察する。心理学、社会、文化などさまざまな要因が異なる地域において、いかに説明、選好、リーダーシップの実践と形式的効果の評価に影響を与えるのかについて英語で検討する。リーダーシップとグローバルな思考態度のつながりを理解することで、行動的なグローバル・リーダーとして必要な知識、技能、手段を英語で身に付けることを目的とする。 | 1.さまざまなグローバルな環境における十分なリーダーシップのスキルを英語で身に付けることができる。 2.リーダーシップについて包括的な理解を示すことができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | 1.さまざまなグローバルな環境における基本的なリーダーシップのスキルを英語で身に付けることができる。 2.リーダーシップについて基本的な理解を示すことができる。(言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| 国際基礎演習A | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 専門分野の入門的な文献、資料の講義を行い、専門研究の基礎を固める。専攻分野を視野に入れた、基本的知識を習得するための文献購読や時事的資料の収集・購読をゼミナール形式で行う。 文献を正確に読み、そこから得た知識を整理し、問題意識をもって考察する。最終的には具体的な資料をもとに小論文等を執筆し、統括する。 | 専攻分野に関連した、入門的な文献や資料の講義を行い、専門分野の基礎的知識を十分に習得することができる。 資料の読解力を修得し、専門研究の基礎を十分に固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 専攻分野に関連した、入門的な文献や資料の講義を行い、専門分野の最低限の基礎的知識を習得することができる。資料の読解力を修得し、専門研究の最低限の基礎を固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際基礎演習B | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 「国際基礎演習A」に引き続き、専門分野の入門的な文献、資料の講義を行い、専攻プログラムの視野を広げ、専門研究の基礎を固める。専門分野の基礎的知識を習得するための文献購読や時事的資料の収集・購読をゼミナール形式で行う。 文献を正確に読み、そこから得た知識を整理し、問題意識をもって考察する。最終的に具体的な資料をもとに小論文等を執筆し、統括する。 | 「国際基礎演習A」で学んだことを踏まえ、専攻分野に関連した専門分野の基礎的知識を十分に習得することができる。 資料の読解力を修得し、専門研究の基礎を十分に固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 「国際基礎演習A」で学んだことを踏まえ、専攻分野に関連した専門分野の最低限の基礎的知識を習得することができる。資料の読解力を修得し、専門研究の最低限の基礎を固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| GSE Intermediate Research Seminar | 国際学部 専門 基幹科目 | 2 | 2 | この科目は専門基幹科目です。 GSEプログラムでの卒業論文執筆にあたっての専門分野の入門的な英語の文献、資料の講義を行い、専門研究の基礎を固める。専攻分野を視野に入れた、基本的知識を習得するための英語の文献購読や時事的資料の収集・購読をゼミナール形式で行う。 英語文献を正確に読み、そこから得た知識を整理し、問題意識をもって考察する。最終的には具体的な資料をもとに英語による小論文等を執筆し、統括する。 | 専攻分野に関連した、入門的な英語の文献や資料の講義を行い、専門分野の基礎的知識を十分に習得することができる。 英文資料の読解力を修得し、専門研究の基礎を十分に固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 専攻分野に関連した、入門的な英語の文献や資料の講義を行い、専門分野の最低限の基礎的知識を習得することができる。 英文資料の読解力を修得し、専門研究の最低限の基礎を固めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際特論A(エリア) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 エリア・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連づけながら理解する。 | エリア・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしながら十分に理解することができる。 (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | エリア・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を視野に入れた基本的な理解ができる。(知識・理解) (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| 国際特論B(コミュニケーション) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際特論はコースの専攻分野に軸を置きながらも、より専門的なテーマをコース横断的な視点で取り上げる。この国際特論IIでは、コミュニケーション・スタディーズコースの専攻分野を軸として、エリア・スタディーズあるいはグローバル・スタディーズの両コースの専攻分野と関連させながら、いくつかのテーマについて考察し、多角的な視点からの理解を深めていく。 | コミュニケーション・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしながら理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | コミュニケーション・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしながら理解することができる。(異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| 国際特論C(グローバル) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際特論はコースの専攻分野に軸を置きながらも、より専門的なテーマをコース横断的な視点で取り上げる。この国際特論IIIでは、グローバル・スタディーズコースの専攻分野を軸として、エリア・スタディーズあるいはコミュニケーション・スタディーズの両コースの専攻分野と関連させながら、いくつかのテーマについて考察し、多角的な視点からの理解を深めていく。 | グローバル・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしながら理解し、説明することができる。 (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) | グローバル・スタディーズコースの専攻分野に関わるテーマについて、他コースの専攻分野との共通点や相違点など関連性を明確にしながら理解することができる。 (異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決) |
| 日本の政治経済 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 日本の第二次世界大戦後史（占領期～高度経済成長～平成時代）の政治・経済・国際関係を中心に講義する。歴史資料を積極的に用い、現在と地続きの現代史に関する理解を深めるとともに、現代社会がかかえる諸問題の原因と背景を考察する。 | 日本の戦後史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。 (異文化理解・多様性理解) | 日本の戦後史に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。 (異文化理解・多様性理解) |
| 中国の政治経済 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 社会の多様性を学際的な観点から理解し、また共感することができることを目標とし、その事例として中国の政治経済をとりあげる。毛沢東は中華人民共和国の「建国の父」だが、「大躍進」政策や「文化大革命」によって、人々を苦しめたのも事実である。1970年代末から始まった、鄧小平の「改革開放」政策によって、中国はGDP世界第二位の経済大国に成長した。しかし、今日の中国社会はバラ色とはいえない。「先に豊かになれる者から豊かになれ」というスローガンによって富を得た人々と、取り残された人々との格差が広がってしまった。貧困層のあいだには「こんなことなら毛沢東時代に戻りたい」という悲鳴も上がり、中国人は、いままも「毛沢東派」と「反毛沢東派」に分かれている。巨大経済圏構想「一帯一路」など最近の情勢にもふれながら、現代中国政治を理解するための基礎を学ぶ。 | ・中華人民共和国の歴史と重大事件について、十分に理解している。 ・中華人民共和国の指導者と政策について、十分に理解している。 ・中華人民共和国の政治・経済について、適切に説明することができる。 ・中華人民共和国がかかえる諸問題について、十分な知識を有するとともに、それらについて自分の見解を述べることができる。(異文化理解・多様性理解) | ・中華人民共和国の歴史と重大事件について、基本的に、理解している。 ・中華人民共和国の指導者と政策について、基本的に、理解している。 ・中華人民共和国の政治・経済について、自分なりに説明することができる。 ・中華人民共和国がかかえる諸問題について、一定の知識を有するとともに、それらについて自分の見解を基本的に述べることができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------------|-----------------|------|-----|--|---|---|
| アジア地域論 A(東アジア) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 社会の多様性を学際的な観点から理解し、また共感することができることを目標とし、その事例として近代の東アジアをとりあげる。 ある地域について深く学ぶには、歴史・社会・政治・芸術・文学・思想など多方面からの考察が必要となる。本講義は、日本・朝鮮半島・中国を中心とする東アジア地域について、さまざまな角度から理解を深めることを目的とする。東アジアという地域全体の特質を把握するとともに、地域内の個別の国や地域についても深く考察し、それぞれの特徴を理解する。さらに古代から現代にいたるまで、東アジアの国や地域の間にもどのような関係が存在したか、どのような文化交流があったのかなどについても考える。東アジアの国や地域のあいだに存在する共通点と相違点も考察の対象である。さらに、世界の他の地域が東アジアに与えた影響、逆に東アジアが世界の他の地域に与えた影響についても考える。 | 東アジアという地域の特色を理解している。 東アジアのそれぞれの国・地域の特色を理解している。 東アジアの国・地域間の関係を理解している。 東アジアの国・地域間の共通点や相違点を指摘することができる。 東アジアと、世界の他の地域との関係を理解している。 東アジア地域について、自分の見解を述べることができる。(異文化理解・多様性理解) | 東アジアという地域の特色を基本的に理解している。 東アジアのそれぞれの国・地域の特色を基本的に理解している。 東アジアの国・地域間の関係を基本的に理解している。 東アジアの国・地域間の共通点や相違点を基本的に指摘することができる。 東アジアと、世界の他の地域との関係を基本的に理解している。 東アジア地域について、自分の見解を基本的に述べることができる。 (異文化理解・多様性理解) |
| アジア地域論 B(東南アジア) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 本科目では、近年、経済発展や日本との交流が進展しつつある東南アジア地域に位置する諸国・諸地域に関して地域研究の観点からの理解を目指す。当地域は歴史的には東アジアと西洋世界の結節点として重要な地位を占めてきたが、多くの国が植民地時代を経験し、戦後の政治的独立後も、政治・経済・社会などの面で大きな変化をたどってきている。また、中国をはじめとする東アジア研究に比べると、東南アジア地域については学生の学習機会が少ないかもしれない。本科目では、東南アジア地域の地域的総体または特定国のいずれかに焦点を当て、政治、経済、社会、文化、歴史など様々な観点から特定のアプローチもしくは複合的なアプローチをとり、東南アジア地域の諸相を理解することを目標とする。 | 東南アジア地域における諸相を、政治、経済、社会、文化、歴史等の観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムを十分に理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 東南アジア地域における諸相を、政治、経済、社会、文化、歴史等の観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムを理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| アジア地域論 C(南・西アジア) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 グローバル化が進展する現在、日本企業の南・西アジア地域への進出、経済連携協定に基づくアジア地域からの労働者の受け入れやアジア地域への開発援助等、様々な領域で日本と南・西アジア社会との結びつきは深まりをみせている。この授業では、政治、経済、社会、文化、歴史など地域研究の視点から、今日の南・西アジア社会の動向を読み解くことを目的とする。そのなかでも、南・西アジア地域の地域的総体または特定国のいずれかに焦点を当て、政治、経済、社会、文化、歴史など様々な観点から特定のアプローチもしくは複合的なアプローチをとり、南・西アジア地域の諸相を理解することを目標とする。 | 南・西アジア地域における諸相を、政治、経済、社会、文化、歴史等の観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムを十分に理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 南・西アジア地域における諸相を、政治、経済、社会、文化、歴史等の観点から考察することによって、国家・地域・社会のダイナミズムを十分に理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパの政治経済 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 ヨーロッパ各国の政治制度の基礎知識を習得する。基本的に比較政治学的アプローチに従い、歴史と現状の両面から、ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について考察する。さらに、各国の国内政治を検討する際にも、欧州統合による域内統治の発展に注目し、常にEUとの関係に配慮して考察する。 | ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について、その歴史の変遷と現状の両面から、比較政治学の理論を用いて、総合的に説明できる。(異文化理解・多様性理解) | ヨーロッパ各国の政治制度の共通性と多様性について、基本的な事項を説明できる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパ地域論A(イギリス) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 イギリスはヨーロッパの一部でありながらも大陸のヨーロッパ諸国とは異なる意識をもつとともに、イングランド以外にスコットランド、ウェールズ、北アイルランドといった政治的、文化的に多様な地域から成り立っている。この講義では、こうしたイギリスの特徴を、歴史的な経緯をふまえて、政治的、社会的、文化的な観点から考える。 | 1. 現代イギリス社会の前提となる歴史的経緯について、対外関係や内部の多様性とともに理解し、具体的な例を挙げながら説明することができる。 2. 1で得られた理解をふまえ、日本との比較の視点から、具体的な事例を挙げて共通点と相違点を説明できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 現代イギリス社会の前提となる歴史的経緯について、対外関係や内部の多様性とともに理解し、説明することができる。 2. 1で得られた理解をふまえ、日本との比較の視点から、共通点と相違点を説明できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパ地域論B(フランス) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 フランスをおもなフィールドとして取り上げ、ヨーロッパ地域への理解をふかめます。現代のフランス社会の諸問題を取り上げ、フランス社会の特徴とは何であるか考える。「現代」というフランス社会の時代区分だが、1968年のいわゆる五月革命 (l'Evenement du mai 1968) 以降の社会変動期以降を考えている。テーマとしては、外国人労働者問題や移民、深刻な失業問題の背景に潜む教育制度の問題、イスラーム、家族の変化、男女平等、バリエ制度などを取り上げる。 | 現代フランスの社会の基本的な成り立ちと諸問題を例を挙げて具体的に述べ、さらに自分の世界観を広げることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 現代フランスの社会の基本的な成り立ちと諸問題を最低限例を挙げて具体的に述べ、さらに自分の世界観を広げることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパ地域論C(ドイツ・中欧) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 ドイツは地理的にヨーロッパの中心に位置するとともに、EUのなかでも政治的、経済的にも影響力の大きな国である。また、ドイツ語はドイツだけではなく、スイスやオーストリアなど周辺の国にも母語として使用されている言語である一方、現在では人口の20%が移民を背景とする出自を持っている。こうした言語、文化、政治、社会の重なりとズレに注目しつつ、ドイツの歴史と現在について考える。 | 1. 現代ドイツの成り立ちについて、その特徴（連邦制、分断と統一、宗教、言語など）をふまえて具体的に説明することができる。 2. 1で得られた理解をふまえ、日本との比較の観点から、具体的な事例を挙げて共通点と相違点を説明できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 現代ドイツの成り立ちについて、その特徴（連邦制、分断と統一、宗教、言語など）をふまえて説明することができる。 2. 1で得られた理解をふまえ、日本との比較の観点から、共通点と相違点を説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|----------------------------|-----------------|------|-----|--|---|--|
| ヨーロッパ地域論D(地中海) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 ヨーロッパの先進地域は現在は北西ヨーロッパであるが、ヨーロッパ文明発祥の地は地中海地域であり、地中海地域は歴史上長い期間ヨーロッパ文明の中心地域であった。そうしたことから地中海地域に含まれる各地には、地中海地域としての文化的・社会的共通性がみられる。この科目では、同一ヨーロッパ内の共通性と差異性を意識しつつ、エリア・スタディーズの学際的視点に基づき、地中海地域の地域性を専門的に解説する。 | 地中海地域に係る自然・文化・歴史・地理などの専門的な用語を詳細に説明できる。 2. 地中海地域に関連した様々な専門的な用語を用いて、地域全体と個々の諸地域の特徴を詳細に説明できる。 3. の地中海地域の文化的・社会的特徴を十分理解したうえで、地域全体と個々の諸地域の特徴を文章や図などで正確に表現できる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 地中海地域に係る自然・文化・歴史・地理などの基本用語を必要最低限度説明できる。 2. 地中海地域に関連した基本用語を用いて、地域全体と個々の諸地域の特徴を必要最低限度説明できる。 3. 地中海地域の文化的・社会的特徴をある程度理解したうえで、地域全体と個々の諸地域の特徴を文章や図などで必要最低限度表現できる。(異文化理解・多様性理解) |
| ヨーロッパ地域論E(東欧・北欧) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 ヨーロッパの先進地域は現在は北西ヨーロッパだけでなく、東欧・北欧地域も当然のことながら含まれる。本科目では、同一ヨーロッパ内の共通性と差異性を意識して、東欧・北欧に関するエリア・スタディーズの知識・論点を取り上げる。 | 1. 東欧・北欧について授業で取り上げられた状況等について深く理解できるようにする 2. 東欧・北欧の独自性ととも、そのヨーロッパの一部としてのあり方について深く考えられるようになる(異文化理解・多様性理解) | 1. 東欧・北欧について授業で取り上げられた状況等について必要最低限度理解できるようにする 2. 東欧・北欧の独自性ととも、そのヨーロッパの一部としてのあり方について必要最低限度考えられるようになる(異文化理解・多様性理解) |
| アメリカの政治経済 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記してないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を理解する。 政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について考察する。 | 1. アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記してないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を十分に説明できる。 2. 政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について、自分の考えを十分に説明できる。(異文化理解・多様性理解) | 1. アメリカの環境政策、特に自然保護政策は官僚でなく市民が牽引してきたことや、環境という現代的な課題について合衆国憲法が明記してないことの制約といった、アメリカ独特の政治過程の特色を最低限度説明できる。 2. 政治主導のアメリカ型の政策決定のメリットと問題点を理解することにより、官僚主導から政治主導に転換しつつある今後の日本のあり方について、自分の考えを最低限度説明ができる。(異文化理解・多様性理解) |
| アメリカ地域論A(北米) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 アメリカ文化はわれわれにとって馴染み深く、時にそれをアメリカのもの意識することさえなく日常の中で受容している。この授業は、アメリカ文化のさまざまなトピックをアメリカ合衆国の歴史的文脈や社会的状況において考察することを通じて、それぞれのトピックが持つアメリカ的特質を明らかにすると共に、その背後にあるアメリカの歴史や社会への理解を深めることを目的とする。 | さまざまなトピックの考察を通じて、西洋と日本とは異なる歴史・社会的文脈の中で成立したアメリカ文化の特質を理解できるようになる。 アメリカ合衆国の文化の特質を説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | さまざまなトピックの考察を通じて、西洋と日本とは異なる歴史・社会的文脈の中で成立したアメリカ文化の特質を最低限度理解できるようになる。 アメリカ合衆国の文化の特質を最低限度説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| アメリカ地域論B(中南米) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 多様な歴史と文化を有する中南米地域を包括的に概観する。マヤ、アステカ、インカなどの古代文明から現代の中南米各国の政治、経済、社会および文化までを対象とする。政治、経済および文化において特に影響力を持つメキシコ、ブラジルおよびアルゼンチンに力点を置きつつ、特色ある政治経済や文化の事例につき周辺地域のそれも視野に入れる。宗教や言語を共有する国が多い一方で、国別および国内地域ごとに独特の文化を発展させてきたことを理解することを目指す。 | 中南米（ラテンアメリカおよびカリブ地域）の「現代史」を軸に、その社会の各側面を解説し、理解することができる。 同時に各テーマごとに行うプレゼンテーションとディスカッションを通じて、日本では必ずしも正確に伝わっているとは言えないこの世界を正しく理解できるようにする。(異文化理解・多様性理解) | 中南米（ラテンアメリカおよびカリブ地域）の「現代史」を軸に、その社会の各側面を解説を試み、最低限度理解することができる。 同時に各テーマごとに行うプレゼンテーションとディスカッションを通じて、日本では必ずしも正確に伝わっているとは言えないこの世界を最低限度理解できるようにする。(異文化理解・多様性理解) |
| Topics in American Studies | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 アメリカ社会を構成する様々な人々や集団、彼らの文化を英語で学ぶことを通じて、アメリカ合衆国の性格や特徴を理解することを目指す。社会科学や歴史学、文化研究の方法を用いて、ジェンダーや人種、階級や貧困等の様々な側面から、アメリカ社会の多様性ととも、諸集団の経験や集団間の関係、さらにはアメリカ合衆国という国家との関係を英語で考察する。講義で扱われるトピックを通じて、政治経済から文化までアメリカ合衆国を英語で総合的に学ぶ。 | アメリカ合衆国を、英語で広く社会的、文化的側面から論じることで、より総合的でホリスティックな理解ができるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | アメリカ合衆国を、英語で広く社会的、文化的側面から論じる姿勢を身につけ、より総合的でホリスティックな理解が最低限度できるようになる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| Topics in British Studies | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 イギリスはヨーロッパの一部でありながらも大陸のヨーロッパ諸国とは異なる意識をもつとともに、イングランド以外にスコットランド、ウェールズ、北アイルランドといった政治的、文化的に多様な地域から成り立っている。この講義では、こうしたイギリスの特徴を、歴史的な経緯をふまえて、政治的、社会的、文化的な観点から英語で考える。 | 現代イギリス社会の歴史的背景を、対外的な関係や内部の多様性を含めて明確に理解し、英語で十分に説明できる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) | 現代イギリス社会の歴史的背景を、対外的な関係や内部の多様性を含めて理解し、英語で基本的なレベルで説明できる。(異文化理解・多様性理解・言語運用能力) |
| コミュニケーション論E(通訳・翻訳) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 原語と訳語を時を移さずに口頭で結びつける「通訳」と、文書に盛り込まれた伝達内容を時間的なゆとりを持ち、言語の壁を越えて運ぶ「翻訳」について、とりわけ後者に重点を置いて学習する。その際、時事に関するトピック、洋楽の歌詞、映画のスクリーン、学術的な文書等、多様な英文を扱う。翻訳のコツやポイントをおさえ、また、英文で扱われているテーマに関する基本的な知識を取り入れながらトレーニングを行う。 | 1. 通訳の手法を理解し、説明することができる。2. 翻訳の手法を理解し、説明することができる。3. 実際の通訳・翻訳において、授業で学んだ知識やスキルを活用することができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 通訳の基礎的な手法を理解し、説明することができる。2. 翻訳の基礎的な手法を理解し、説明することができる。3. 実際の通訳・翻訳において、授業で学んだ基礎的な知識やスキルを活用することができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------------|-----------------|------|-----|--|---|---|
| コミュニケーション論F(メディアと情報) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 従来の新聞やラジオ、テレビに加えて、インターネット等の新しいメディアの普及が、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えてきたかを学ぶ。従来のマスメディアは一方向的に情報を発信する傾向が強かったが、近年は「視聴者参加型」という双方向性を強調する傾向にある。メディアとコミュニケーションの関係について、世論形成に注目しながら理解を深める。 | 1. メディアの発展史について理解し、説明することができる。2. コミュニケーション研究の重要概念や理論を理解し、説明することができる。3. メディアと世論形成の関係について理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. メディアの発展史について基本的な事項を理解し、説明することができる。2. コミュニケーション研究の基本的な概念と理論を理解し、説明することができる。3. メディアと世論形成の関係について基本的な事項を理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| コミュニケーション論G(言語コミュニケーション) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 コミュニケーションとは何かについて、認知科学や哲学等、複数の学問分野における基本的な概念や理論、および解釈を踏まえて包括的に理解する。また、コミュニケーションをジャーナリズムやメディアとの関連性において学ぶ。その際、コミュニケーションを分析し、より良いメッセージ発信のあり方についても検討する。 | 1. コミュニケーションに関する学術的概念を理解し、説明することができる。2. コミュニケーションの観点から、メディアの歴史の変遷を包括的に理解し、説明することができる。3. コミュニケーションの観点から、メディアの実践を包括的に理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. コミュニケーションに関する学術的な基本概念を理解し、説明することができる。2. コミュニケーションの観点から、メディアの歴史の変遷について基本的な事項を理解し、説明することができる。3. コミュニケーションの観点から、メディアの実践について基本的な事項を理解し、説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 世界の現代思想A(日本) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 近代(幕末～昭和戦前・戦時期)の日本の思想・宗教について講義する。思想の担い手である人々が、時代状況(政治・経済・国際関係)と、どのように向き合ったのかを考察していく。 | 近代日本の思想・宗教に関する基本的な事項について、十分に理解し説明できる。(異文化理解・多様性理解) | 近代日本の思想・宗教に関する基本的な事項について、理解し説明できる。(異文化理解・多様性理解) |
| 世界の現代思想B(中国) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 中国文化のエッセンスとして、東アジア、さらにはヨーロッパにまで影響したのは『論語』と漢詩の各作です。両方とも、日本でも古くから愛読され、日本人の感情のあり方や倫理観に今なお大きな影響を与えています。この授業では前者につき、それを斬新な視点で読みなおしたテキストを媒介として解読し、あわせて関連する中国文化のいろいろの問題について考え、理解を深めてゆきます。 | 1. 『論語』の読解を通じ、東アジアに今なお深い影響を与えている本書の内容の概略がわかり、その特色を説明できる。 2. 『論語』の内容が現代日本人のものの見方や倫理観に大きく影響していることを実感し、そのことを自分のことばで説明できる。 3. 関連の文献を探ることができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. 『論語』の読解を通じ、東アジアに今なお深い影響を与えている本書の内容の概略がわかる。 2. 『論語』の内容が現代日本人のものの見方や倫理観に大きく影響していることを実感できる。 3. 関連の文献を探ることができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 世界の現代思想C(ヨーロッパ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 この科目では、古代から現代にいたる間にヨーロッパで展開した思想や宗教の特定のテーマをいくつか取り上げ、それらが登場して現在に至るまでの歴史、思想・宗教史における位置づけ、さらには現代社会における意義などについて、専門的知見に立脚して考察するために必要な知識を涵養する。 | ヨーロッパ文化における思想と宗教との歴史的関連の探求を通して、現代に生きる人間にとっての比較思想的意義を理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 1. ヨーロッパの思想・宗教の歴史的な全体像をひとつのまとまりとしてある程度説明できる。2. 中世の形而上学(神学)を打破し克服したルネサンス・宗教改革について、ある程度説明できる。3. 授業中の課題や事前・事後学習に取り組み、ヨーロッパ文化における思想と宗教との歴史的関連の探求を通して、現代に生きる人間にとっての比較思想的意義を理解しようとする。。(異文化理解・多様性理解) |
| 世界の現代思想D(アメリカ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 アメリカ合衆国は理念国家である、あるいは信念によって建てられた国である、といった表現がなされてきた。その理念や信念は宗教と深く結びついており、アメリカ合衆国を理解するためには、宗教や思想への理解は不可欠であると言える。そのため、人種やジェンダーの問題にも触れながら、アメリカ社会の形成に大きく影響してきた宗教や思想を学ぶ。 | アメリカ合衆国における宗教や思想の特質を理解することができる。アメリカ合衆国における宗教や思想の特徴について説明することができる。(異文化理解・多様性理解) | アメリカ合衆国における宗教や思想の特質を最低限理解することができる。アメリカ合衆国における宗教や思想の特徴について最低限説明することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 比較文化論A(アジア) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 比較の視点からアジアの諸文化について検討し、なかでも漢字文化圏を中心とする東アジア地域(主に日本、中国、朝鮮半島)を対象とする。東アジア地域の文化は表面的には類似点が多いが、近代に入ってから西洋からの文化的影響もきわめて大きい。各地域では時代的な必要性に応じて、外部からの変化にどのように対応し、いかなる文化変容が生じてきたのか。そうした共通点・相違点を比較しながら、アジアにおける文化の特性について探っていく。 | 東アジア地域(中国・日本・朝鮮半島)を中心に、それぞれの民族が形成してきた文化について、各自の歴史的背景も視野に入れつつ比較考察することで、共通性と差異性が理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 東アジア地域(中国・日本・朝鮮半島)を中心に、それぞれの民族が形成してきた文化について、各自の歴史的背景も視野に入れつつ比較考察することで、共通性と差異性が理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| 比較文化論B(ヨーロッパ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 日仏文化について、芸術の世界を通じて、以下のとおり比較考察し、その際時に両国間の文化的影響に着目する。(1) 美術を中心としたジャポニスムの概論を学ぶ。(2) 毎回多くの画像資料を鑑賞し、視覚的イメージに基づく美術史独自の考察法を修得する。(3) 西洋がどのような理由でジャポニスムの表象を求めていたのかを知り、異文化表象やジェンダーについて理解を深める。 | 日仏文化交流について、絵画を中心とする美術の分野を通して理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) | 日仏文化交流について、絵画を中心とする美術の分野を通して理解できるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| 比較文化論C(アメリカ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 カナダは毎年多くの移民を受け入れ、多民族・多文化国家としての特徴を持つ。授業では、多民族・多文化の共存がどのようにして図られてきたのかを、歴史的、社会的、文化的側面に注目して理解する。また、その際に、同じく移民を多く受け入れてきたアメリカ合衆国や、近年、外国人労働者や留学生の増加によって社会が多様化する日本との比較検討も行う。 | 1. カナダにおける民族的・文化的多様性の実態を説明することができる。2. カナダにおける多民族・多文化共存について、歴史、社会、文化的側面と関連づけて説明することができる。3. カナダを参考に、日本における民族的・文化的多様化への対応や共存のあり方について自身の考えを示すことができる。(異文化理解・多様性理解) | 1. カナダにおける民族的・文化的多様性の例を挙げることができる。2. カナダにおける多民族・多文化共存について、基本的な歴史、社会、文化的側面と関連づけて説明することができる。3. カナダを参考に、日本における民族的・文化的多様化への対応や共存のあり方について自身の考えを示すことができる。(異文化理解・多様性理解) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------------------------|-----------------|------|-----|--|---|--|
| 表象文化論A(日本) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 日本の芸術は、この国だけで生まれ発展してきたものではなく、さまざまな外国文化の影響を受けながら、時間をかけて形づくられてきた。近世および近代の芸術を中心に、各時代にどのような外国文化の受容がおこなわれたのか、それがどのように取捨選択され、日本化されてきたのかを、日本美術史の流れのなかで考察していく。南蛮人によってもたらされたヨーロッパ文化、長い鎖国時代にも着実に浸透しつつあった異国のさまざまな文化、そして明治維新以降の急速な西欧化が日本の芸術にどのような変化をもたらしたか、その中で連続と受け継がれてきた日本美術の特質とは何かを考えていく。 | 日本の美術の特質や、時代的な変化、代表的な作品、国外の影響について理解することができる。(異文化理解・多様性理解) | 日本の美術の特質や、時代的な変化、代表的な作品、国外の影響について理解することができる。(異文化理解・多様性理解) |
| 表象文化論B(中国) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 中国の様々な芸術をテーマに、現在に至るまでの来歴、その形式と発展過程を総合的に紹介するとともに、日本の伝統芸術との相違点に言及する。本講義を通して、受講者が中国文化に対する知識を深め、中国芸術の特徴と日中交流の長い道のりを理解し、中華文化研究への関心を誘発することを期す。 | 中国の芸術について、講義内容を理解し、要点を把握し、自らの見解を述べるとともに、論評することができる(異文化理解・多様性理解) | 中国の芸術について、講義内容を理解し、要点を把握し、説明することができる(異文化理解・多様性理解) |
| 表象文化論C(ヨーロッパ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 美術作品は、直接我々の感性に働きかけてくる鑑賞の対象であると同時に、各時代の人間や社会を映し出す鏡でもある。そこに読みとれるものは信仰、死生観、自然観、生活習慣などさまざまな面に及び、美術はまさに文化の集大成であるといえよう。本講義ではヨーロッパ文化において重要な位相を占める芸術について、その精神的な土台をなすキリスト教美術や、あるいは19世紀から20世紀における近現代美術を取り上げ、その成立・発展過程について考察する。 | ヨーロッパにどのような芸術作品が生みだされてきたか、それをどのように見て考えるとあらたなヨーロッパ文化像が見えてくるのか正確に理解することができるようになる。芸術作品を実際に見ることの大切さ、それを手がかりにいかにか考えるか、さまざまな角度から芸術作品を考える方法を学び、自分の目で見て深く考える習慣を身につけることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | ヨーロッパにどのような芸術作品が生みだされてきたか、それをどのように見て考えるとあらたなヨーロッパ文化像が見えてくるのか一定程度理解することができるようになる。芸術作品を実際に見ることの大切さ、それを手がかりにいかにか考えるか、さまざまな角度から芸術作品を考える方法を学び、自分の目で見て考える習慣を身につけることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| 表象文化論D(アメリカ) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 多民族社会が生んだエスニック演劇、意識変革を追求したフェミニストやゲイ演劇、グローバル・ビジネス化するエンターテインメントを取り上げて、多民族国家アメリカが主流文化と対抗文化の衝突、共存、混合、混在の過程を繰り返しながらナショナル・アイデンティティを追求してきた様相を考察する。大衆文化とテクノロジーを活用し、新しい自由な芸術の概念を極端にまで実践し続けるアメリカのアートの魅力と功罪も分析する。 | アメリカの様々な文化的事象を取り上げ、多民族社会アメリカの状況を検討することができる。 アメリカの社会や文化に関する基礎的な知識を深めることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) | アメリカの様々な文化的事象を取り上げ、多民族社会アメリカの状況を検討することができる。 アメリカの社会や文化に関する基礎的な知識を最低限得ることができるようになる。(異文化理解・多様性理解) |
| Comparative Writings on Japan | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 この科目では、日本の内外のさまざまな地理的位置からの英語による著作において、日本がどのように理解され、描かれているかを検証する。 | 英語で日本に関する著作を十分に理解し、分析できる。 様々な著作がどのように日本を理解し、表現しているかを英語で十分に説明できる。(異文化理解・言語運用能力) | 英語で日本に関する著作を基本的なレベルで理解し、分析できる。 様々な著作がどのように日本を理解し描写しているかを英語で基本的に説明できる。(異文化理解・言語運用能力) |
| アジア太平洋の国際関係A(総論) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 近現代の国際関係は欧米主導で展開してきたが、戦後のアジア諸国の独立と近年の経済発展により今世紀は「アジアの時代」と言われて久しい。本講義では、存在感を強めるアジア太平洋地域を国際関係の中で理解するための基礎的な知識や世界の見方について、理論や歴史、実証の観点を中心として検討する。Aは主に国際政治を中心とし、複眼的・多眼的にアジア世界の地域秩序を理解できるようになることを目指す。一方、同科目Bでは各地域に関する地域研究の知見を中心に取り扱う。 | 1. アジアを中心とした非欧米圏で顕著な国際関係の概要について、国際関係論の理論や枠組みを用いながら基本的な特徴を説明できるようになる。 2. 前項をもとに地域やグローバルな課題を見出し、その将来の展望を理論的に述べるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. アジアを中心とした非欧米圏で顕著な国際関係の概要について、国際関係論の理論や枠組みを用いながら基本的な特徴を説明できるようになる。 2. 前項をもとに地域やグローバルな課題を見出し、その将来の展望を理論的に述べるようになる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| アジア太平洋の国際関係B(各論) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 アジア太平洋の国際関係Bでは、実物面(地域事情)の観点から国際関係を考察する。具体的には、アジアという特定地域の中で観察される国際関係の諸相について、主に対立・協調・共存といった側面に焦点をあてる。そのため、地域事情の具体例に対する理解を深めたい場合はB(本科目)が適切であるが、一方で、全体像や方法論(分析手法など）に関心がある学生は同科目Aを受講することが望まれる。 | 1. アジア太平洋を国際関係の中で深く理解し、政治経済、地域研究に基づく知識をもとに論理的にこれを論じることができる。 2. アジア太平洋地域の国際関係上重要な出来事や身近な動向を自ら選んで主体的に調べ、多角的に考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. アジア太平洋を国際関係の中で深く理解し、政治経済、地域研究に基づく知識をもとに論理的にこれを論じることができる。 2. アジア太平洋地域の国際関係上重要な出来事や身近な動向を自ら選んで主体的に調べ、多角的に考察することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| イスラムと世界A(近代) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方について基礎的な知識を身につけるとともに、とりわけ20世紀における中東地域とヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係の歴史に力点を置いて概観する。こうした作業を通じて20世紀後半において多くの紛争や問題を抱えることとなった中東の国際関係の特質を、歴史的・文化的背景を踏まえて理解する力を養うことを目指す。 | イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方、20世紀のヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係、そして20世紀後半における中東の紛争や国際関係の特質について理解できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | イスラム教圏における国家と地域秩序のあり方、20世紀のヨーロッパを中心とする国々とイスラム諸国との関係、そして20世紀後半における中東の紛争や国際関係の特質について最低限の知識を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| イスラムと世界B(現代) | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 パレスチナ問題と中東和平の模索、イスラム原理主義をめぐる地域内および先進国との対立、中東をめぐる国際的な経済利益と湾岸戦争以降のイラク情勢を含む中東地域の様々な変化や中東地域への他国の関わり方の変遷を考察することにより、今日の国際社会が中東をめぐって抱える諸問題に関する理解を深める。 | パレスチナ問題と中東和平の問題、イスラム原理主義をめぐる諸国家間の対立、中東をめぐる国際的な経済利益、湾岸戦争以降の中東をめぐる諸問題について理解できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | パレスチナ問題と中東和平の問題、イスラム原理主義をめぐる諸国家間の対立、中東をめぐる国際的な経済利益、湾岸戦争以降の中東をめぐる諸問題について最低限の知識を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------|-----------------|------|-----|---|--|--|
| 国際人権論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際社会において、人権の保護という観点を重視するようになったのは、第二次大戦後のことである。この講義は、国際的な人権保護について取り扱う。すなわち、いかにして、国際的に人権の保護がおこなわれるようになったのかを学ぶ。難民や外国人労働者などのマイノリティに属する人々の人権保護の問題のみならず、女性、子ども等の人権保護について、国際的な規定や履行方法、および現代国際社会の持つ問題点について理解を深める。 | 国籍に関する各国の国内法状況について具体的に説明ができる。外国人に関する国際私法および国際公法上の保護について説明できる。難民をめぐる国際法規範について歴史的に関連付けて説明できる。国際人権条約の履行確保について、条約を解釈適用できる。国連や地域の機関による国際的な人権保護について総合的に比較し、一般化することができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 国籍に関する基本的な原則を列挙できる。外国人に関する法規規について比較することができる。国際人権条約について例をあげることができ、その履行確保の基本的状況を説明できる。国連および地域機関による人権保障制度について基本事項を述べることができる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 紛争解決論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際社会は中央集権化されていないことから、国際紛争の集権的・強力的解決は困難である。本講義では、戦争や武力行使をいかに国際社会が排除するために紛争の平和的解決について国際法を発展させてきたか、国際組織や制度を形成したかについて学習する。 | 武力行使の禁止がいかんにかに成立したかを歴史の経緯に沿って説明できる。国際司法裁判所の裁判管轄権について、国際司法裁判所規程に基づきその問題点を含め総合的に説明できる。国際司法裁判所の手続について、総合的に理解し、説明できる。世界貿易機関などに代表される国連システム以外の紛争解決について説明できる。国際判例を踏まえて紛争解決についての手続的事項を理解できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 戦争の違法化についての基本的経緯を説明できる。国際司法裁判所の裁判手続きについて基本的な事項を把握する。地域機関や他の国際組織の紛争解決手続きの特徴について列挙できる。集団的安全保障の史的展開について選択できる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際経済学A（国際金融論） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際経済学は、国際貿易論(財・サービスの国際取引)と、国際金融論(資本の国際取引)により構成される。本講義では、国際金融に関する問題、カネの国境を越えた取引について、国際金融論を理解し説明できるようになることを目標とする。経済のグローバル化の中での国際金融取引の活発化に焦点をあて、経済事象、制度、政策を分析する力を養う。特に、国際金融論における、国際収支表、外国為替の基礎、為替レートの決定理論、国際金融システムなどについて、自ら考察できる力を身につける。 | 国際金融論における経済用語の意味、内容を的確に理解できる。為替の決定理論、国際収支、国際金融システムなど国際金融に関する問題を、経済理論も理解したうえで、発展的に考察することができる。ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際経済学に適用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に発展的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 国際金融論における経済用語の意味、内容を理解できる。為替の決定理論、国際収支、国際金融システムなど国際金融に関する問題を、経済理論も理解したうえで、考察することができる。ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際金融論に適用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に発展的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 国際経済学B（国際貿易論） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際経済学は、国際貿易論(財・サービスの国際取引)と、国際金融論(資本の国際取引)により構成される。本科目では、国際貿易に関する問題を、モノやサービスの国境を越えた取引について、国際貿易論を理解し説明できるようになることを目標とする。国際貿易、投資、貿易政策が経済に与える影響について分析する力を養う。特に、国際貿易論における、貿易の利益、貿易政策、国際貿易のルール、地域貿易協定などについて、自ら考察できる力を身につける。 | 国際貿易論における経済用語の意味、内容を的確に理解できる。貿易の利益や貿易政策など国際貿易に関する問題を、経済理論も理解したうえで、発展的に考察することができる。ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際貿易論に適用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に発展的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 国際貿易論における経済用語の意味、内容が理解できる。貿易の利益や貿易政策など国際貿易に関する問題を、経済理論も理解したうえで、発展的に考察することができる。ミクロ経済学やマクロ経済学での基礎的分析手法を、国際貿易論に適用して学ぶことで、国際社会の問題を経済学的に発展的に考察する力を身につける。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 開発経済学A（総論） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 開発経済学は、アジアやラテン・アメリカ、アフリカなどに多く存在する開発途上国が抱える開発課題に関する応用経済学の一つである。そのため、開発経済学は、国際協力や持続可能な開発を考える際の重要な基礎知識である。経済発展や開発のメカニズム、問題点、解決策など、開発途上国に関することならおよそ何でも取り扱うことができるため、その理論的基礎にはミクロ経済学・マクロ経済学の諸理論を置きつつ、各国・地域のこれまでの開発経験への深い現状理解・歴史理解と、統計学や行動・実験経済学といった実証研究方法の深化・進展が積極的に活用されてきた実証科学としての性格が強いことも特徴である。開発経済学Aでは、開発途上国の定義に始まり、貧困・失業、農工間格差、産業高度化の停滞などの開発途上にある経済の性質、産業別発展や経済発展のメカニズムなど、基礎的な開発理論・政策について、具体的なデータや事例に触れつつ、講義する。 | 開発経済学の基礎的概念・用語および理論を深く理解している国際開発・国際協力の理論的・政策的変遷を深く理解している特定の開発課題と経済学的思考との関係を深く論じることができる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 開発経済学の基礎的概念・用語および理論を理解している国際開発・国際協力の理論的・政策的変遷を理解している特定の開発課題と経済学的思考との関係を論じることができる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 開発経済学B（各論） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 開発経済学は、アジアやラテン・アメリカ、アフリカなどに多く存在する開発途上国が抱える開発課題に関する応用経済学の一つである。そのため、開発経済学は、国際協力や持続可能な開発を考える際の重要な基礎知識である。経済発展や開発のメカニズム、問題点、解決策など、開発途上国に関することならおよそ何でも取り扱うことができるため、その理論的基礎にはミクロ経済学・マクロ経済学の諸理論を置きつつ、各国・地域のこれまでの開発経験への深い現状理解・歴史理解と、統計学や行動・実験経済学といった実証研究方法の深化・進展が積極的に活用されてきた実証科学としての性格が強いことも特徴である。開発経済学Bでは、学習の第2弾として開発経済学Aと強く関連を持たせ、開発途上地域の中から特定の地域やトピックを取り上げた先行研究に基づいた学習を深め、開発途上国の現状と問題解決に向けた知識・思考法の獲得をさらに目指す。 | 経済発展・開発に関する概念・用語および理論を深く理解している具体的なトピックあるいは国・地域の経済開発課題の析出が高度にできる開発課題を経済学的思考で整理し、両者の関係を深く論じることができる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 経済発展・開発に関する概念・用語および理論を理解している具体的なトピックあるいは国・地域の経済開発課題の析出ができる開発課題を経済学的思考で整理し、両者の関係を論じることができる(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |
| 地球環境論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 現代国際関係に関する専門知識を広げる学びの一環として、地球環境問題の中でも最も注目度が高い地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から理解する。21世紀半ばまでは温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について考察する。 | 1. 地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から十分に説明できる。 2. 21世紀半ばまでは温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について多面的な考察を示せる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) | 1. 地球温暖化問題について、科学、経済および政治の3つの側面から最低限の説明できる。 2. 21世紀半ばまでは温室効果ガスを最低でも半減するための国際協力において、我が国が果たすべき役割について最低限の考察を示せる。(問題発見・分析・解決・リーダーシップ) |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------------------|-----------------|------|-----|---|--|---|
| 国際環境協力論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントを理解する。 国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかについて考察する。 今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいて自分なりに考察する。 | 1. 国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントを十分に説明できる。 2. 国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかについて、自分の考えを十分に説明できる。 3. 今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいて自分なりの考察を十分に説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 1. 国際協力に関する専門的知識と体系的な理解を深める一環として、国際環境協力・国際貢献の個別分野のポイントについて最低限の説明ができる。 2. 国際環境協力・国際貢献の個別分野を掘り下げて、日本が何をすべきかに関する自分の考えについて、最低限の説明ができる。 3. 今まで学んできた国際関係、国際経済、国際協力の知識に基づく広い視野で、授業で取り上げる環境国際協力の個別テーマにアプローチして、上級学年らしく、専門知識に基づいた自分なりの考察を、最低限の説明ができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 平和構築論A（理論） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 冷戦終結後も、地域紛争や内戦は世界各地で起こっており、平和維持活動においても、復興や国家再建など、より多面的な活動を伴う平和構築に重点を置くようになった。この科目では「人間の安全保障」や「保護する責任」など、平和構築に関わる基本学説を理解し、国連における平和構築プロセスや、平和構築の歴史の変遷について検討する。 | 平和構築に関する基本学説を正確に理解し、平和構築のプロセスと歴史について総合的に説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 平和構築に関する基本学説を理解し、平和構築のプロセスと歴史について基本的な事項を説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 平和構築論B（実践） | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 この科目では、「平和構築論A」の内容を引き継ぎ、危機管理や復興支援の方法、国際機関やNGOでの業務など、具体的な事例の分析を通して、平和構築の実践に関わる知識を習得する。必要に応じて、実務家の助言も得る。 | 平和構築の実践について、具体的な事例に触れつつ、その活動内容を総合的に説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 平和構築の実践について、その活動の主要な内容を説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 国際文化交流論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際協力に関する専門的知識を獲得し、体系的な理解を深める一環として、国際文化交流事業の現状と課題を理解する。 日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題につき考察する。 | 1. 国際文化交流事業の現状と課題について十分な説明ができる。 2. 日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題について、自分の考えを十分に説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 1. 国際文化交流事業の現状と課題について最低限の説明ができる。 2. 日本外交において文化交流事業が果たす役割や当面の課題に関する自分の考えについて、最低限の説明ができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 国際文化財保護論 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関して知識を深め、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策から実践まで包括的に理解する。 | 文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関する十分な知識に基づき、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策から実践まで包括的に説明できる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 文化財や文化遺産保護と環境の問題、及び地域社会や観光開発との関係をめぐる様々な問題に関する知識に基づき、この分野における国際協力のあり方や、地域主導の動きなどを理論や政策について最低限の説明ができる。（問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| International Relations | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 国際社会のなかで個々の国家などのアクター（行為主体）がとる対外政策（外交政策）の決定過程分析に必要な理論について英語で理解し、具体的な事例でそれをを用い、考察する。対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムの基本的な考え方を英語で理解する。理論は実際に起こった歴史事象から析出されたものであるため、授業ではビデオなども利用して、具体的な事例の分析を行ないながら英語で考察する。 | 1. 対外政策の決定過程について理解し、国ごとの制度の違いを踏まえた英語の説明ができる。 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、主要な理論に従って分析を行い、英語のレポートを作成することができる。 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムについて、代表的な論者をあげながら、それぞれの特徴を英語で説明できる。（言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） | 1. 対外政策の決定過程について、基本的な事項を英語で説明できる。 2. 具体的な事例をもとに対外政策の決定過程について、英語のレポートを作成することができる。 3. 対外政策の主要理論であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムについて、基本的な事項を英語で説明できる。（言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） |
| Global Business | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 この科目は、現代世界が抱える重要なビジネス問題について、実用的な語彙と知識を身につける。 | 1. 英語でビジネスに関する問題を総合的に判断できる十分な能力がある。 2. 理論や概念を様々なビジネスシーンに効果的に適用できる能力がある。（言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） | 1. 英語でビジネスに関する問題を総合的に判断できる能力がある。 2. 理論や概念を様々なビジネスシーンに適用できる能力がある。（言語運用能力・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決） |
| 国際専門演習 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 専門分野についてより高度な専門的文献や資料を講読し、分析、発表、討論を行う。 研究テーマを絞り、4年次における卒業研究につなげていくために各分野における専門的な研究への方向付けを行う。 | 4年次における卒業研究に備えるため、卒業研究に必要な基礎的知識、研究のテーマの設定の仕方、論文の構成方法などを十分に修得することができる。 論理的な考察が十分にできるようになる。 問題意識を持って関心のあるテーマに積極的に取り組むことができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 4年次における卒業研究に備えるため、卒業研究に必要な基礎的知識、研究のテーマの設定の仕方、論文の構成方法などの基礎を修得することができる。 論理的な考察ができるようになる。 問題意識を持って関心のあるテーマに取り組むことができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 国際卒研演習 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 大学における学問・研究の総仕上げとしての卒業研究に際し、各自テーマの設定、資料収集、調査方法、資料の整理とその分析や考察を行う。 活発なディスカッションを通して、卒業研究の内容を充実させる。 この演習と卒業研究を通して、研究テーマを科学的な方法によって分析・考察し、発表するという研究を実践する。 | 関心のあるテーマに沿って、研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることが十分にできる。 収集した研究文献・資料を十分に理解することができる。 文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究として適切にまとめることができるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 関心のあるテーマに沿って、最低限必要な研究文献・資料の収集をしたり、調査を行ったりすることができる。 収集した研究文献・資料の基本的な部分を理解することができる。 文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究としてまとめることができるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |
| 卒業研究 | 国際学部 専門 発展科目 | 3 | 2 | この科目は専門発展科目です。 1年次から3年次において修得した基礎的・専門的知識や学問的手法をもとに、自らが立てた問題設定を「国際卒研演習」における教員の指導を受けつつ研究成果として形にしておく。 | 関心のあるテーマに沿って、研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることが十分にできる。 収集した研究文献・資料を十分に理解することができる。 文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究として適切にまとめることができるようになる。 研究成果を形にするだけでなく、発表や口頭試問によって研究成果についてわかりやすく明確に説明できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） | 関心のあるテーマに沿って、最低限必要な研究文献・資料を収集したり、調査を行ったりすることができる。 収集した研究文献・資料の基本的な部分を理解することができる。 文献・資料、調査結果を分析・整理し、考察し、卒業研究として適切にまとめることができるようになる。 研究成果を形にするだけでなく、発表や口頭試問によって研究成果について説明できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ） |

| 科目名称 | 科目区分 | 配当年次 | 単位数 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|----------|----------------|------|-----|---|--|--|
| 日本語教育研究A | 国際学部 諸資格に関する科目 | 2 | 4 | 日本語教育について概観する。まず、日本語の教授法に関して、これまでの教授法の歴史をたどりながらそれぞれの教授法の特徴を把握するとともに、教授法について理解を深めるために簡単な模擬授業も行う。また、言語教育における重要な課題のひとつである第二言語習得理論や、言語教育と密接な関わりをもつ異文化理解についても考察する。さらに、地域の日本語教育、現代日本語教育事情、海外の日本語教育事情、日本語教育史など、現代の日本語教育を取り巻くいくつかのテーマをとりあげ、日本語教育全般についての基礎的な知識を養う。 | 日本語教育の歴史や現状、さらに外国語教授法、評価法、また、海外での日本語教育の現状などを十分に理解し、説明できる。また、模擬授業に備えて、適切な教案や副教材を作ることができる。（異文化理解・言語運用能力） | 日本語教育の歴史や現状、さらに外国語教授法、評価法、また、海外での日本語教育の現状などの基本的な知識を理解することができる。また、模擬授業に備えて、教案や副教材を作ることができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語教育研究B | 国際学部 諸資格に関する科目 | 2 | 4 | 日本語教育の教授法について具体的に学ぶ。どのような学習者が日本語を学ぶのか、学習者によってどのようなコースデザインが考えられるのかを考える。まず、マルチメディア教材を含む市販の教材分析をとおして、多様な学習者に応じた市販の教材・教具の長所と短所、想定される学習者、学習目標やそれに対応したシラバス、教材の使用法について考察する。また、コミュニケーションを重視した教材、4技能別教材、漢字教材、視聴覚教材など学習目標にあわせた教材の作成も行う。さらに、言語テストの作成方法、結果の分析方法についても考察する。 | 外国語教授法の理論を十分に理解し、説明することができる。学習者の立場を重視した適切な日本語の教授の仕方を考えることができる。（異文化理解・言語運用能力） | 基本的な外国語教授法の理論を理解することができる。学習者の立場を重視した日本語の教授の仕方を考えることができる。（異文化理解・言語運用能力） |
| 日本語教育実習 | 国際学部 諸資格に関する科目 | 4 | 1 | 模擬授業と授業見学、教壇実習を行う。模擬授業では、テキストの学習項目を的確に把握し、授業計画を立てる。授業案を作成し（必要なら補助教材等も作成する）、授業を行う。模擬授業後に学習者役の学生と意見交換をしながら、よりよい授業のあり方について考える。また、日本語学校等での教壇実習を通して、日本語教師養成課程で学んだことを実践する。 | 日本語教育に関する知識を、模擬授業や教壇実習の活動に十分に活かすことができる。学習目標に沿った適切な教案や副教材を作成し、模擬授業や教壇実習を行うことができる。模擬授業や教壇実習を通して、問題点や課題に気づき、自律的に解決策を探ることができる。（異文化理解・言語運用能力・リーダーシップ） | 日本語教育に関する知識を、模擬授業や教壇実習の活動に活かすことができる。学習目標に沿った教案や副教材を作成し、模擬授業や教壇実習を行うことができる。模擬授業や教壇実習を通して、問題点や課題に気づき、解決策を探ることができる。（異文化理解・言語運用能力・リーダーシップ） |